

2019年度の山口大学の国際交流活動



山口大学国際戦略室



目次

はじめに	1
第1章 2019年度の国際戦略室の活動	2
1. 国際戦略室の組織と役割	3
2. 山口大学 HP「トピックス」で見る 2019年度の本学の国際連携活動	3
3. 国際交流協定	20
(1) 2019年度の国際交流協定の締結等	20
(2) 大学等間国際交流協定	21
(3) 部局等間国際交流協定	25
4. 海外拠点	28
5. 本部への海外からの来訪者	29
6. 本学学長の海外訪問	29
7. 海外協定校・海外ネットワークとの連携	30
8. 研究者の交流	31
9. 職員の研修	32
10. 学内の国際化推進体制の整備	34
11. 海外同窓会活動	34
第2章 2019年度の留学生部門の活動	35
1. 山口大学 HP「トピックス」で見る 2019年度の留学生部門の活動	39
2. 留学促進のための体制整備	42
3. 海外学生交流促進のための広報活動	42
4. 留学生センターにおける学生派遣及び受入	43
第3章 2019年度の学術研究部門の国際交流活動	44
独立行政法人日本学術振興会助成	45
1. 論文博士号取得希望者に対する支援事業	45
【大学院創成科学研究科（工学系） 小河原 加久治 教授】	
2. 外国人研究者招へい事業（一般プログラム）	45

【大学院創成科学研究科（工学系） 中山 雅晴 教授】

第4章 2019年度の各部局の国際交流活動	47
-----------------------------	----

はじめに

山口大学は「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」を理念として、人間力とバイタリティーあふれる人材を輩出できる大学、教員と学生が共に育つ「共育できる大学」を目指しています。この「共育」には、大学と地域が連携してグローバル化の中で共に学び発展すること、留学生や研究者を迎え、送り出すことによって、それらの国々と日本が相互の理解を深め、協力し合って平和で持続性のある世界を目指して手を携えるという意味も含まれています。これらの認識に基づき、本学はグローバル化を総合的に推進するとともに、留学生を含む全ての大学人が、互いの歴史、文化、民族、言語、宗教などの違いを超えて、共感・共鳴・協奏できる「ダイバーシティ・キャンパス」の実現を目指しています。

山口大学は、大学グローバル化推進に際し、学長のリーダーシップが十分に発揮できる意思決定及び組織体制を構築するため、2016年6月に「国立大学法人山口大学における国際戦略に関する規則」を制定し、学長のリーダーシップのもと、国際戦略室は関連する学内外の組織とも連携を深めながら、大学の国際化について様々な議論を重ね、大学グローバル化に向けた活動を推進しております。

2019年度は、本学の大学等間国際交流協定校であるガジヤマダ大学（インドネシア・ジョグジャカルタ）に両大学間で特に交流の深い獣医学分野を中心に本学のインドネシアでの拠点として国際共同事務局を開設しました。同国とは、獣医学分野以外にも、工学分野や経済学分野でも交流が深く、今後さらに交流が活発になることが期待されます。

本報告書では、第1章にて本学における国際化に向けた取り組みを2018年度の国際戦略室の活動をもとに取り纏め、留学生部門、学術研究部門にて実施された国際交流事業をそれぞれ第2章、第3章に掲載いたしました。また第4章には、各部局の国際活動の取り組みを掲載しております。

この報告書により、学内のみならず本学に関係される多くの方々、大学を取り巻く地域の方々に、本学の国際化の状況について知っていただけたら幸いです。同時に、報告書をお読み頂いた方々から、多くの貴重な意見を頂くことができれば、本学の国際化推進に役立つものと期待しています。これからも大学内外の関係者の皆様にお知恵をお借りしながら、積極的に山口大学の国際化を推進してまいりますので、皆様方の力強いご支援をお願いいたします。

国際戦略室

第 1 章 2019 年度の国際戦略室の活動

1. 国際戦略室の組織と役割

2016年5月30日に、本学における教育、研究及び社会連携活動のうち国際的な活動に係る戦略の企画、立案及び実施に向けた方策を決定するため、「国立大学法人山口大学における国際戦略に関する規則」を制定した。本規則により、本学の国際戦略に関しては学長が決定を行い、国際戦略に基づいた本学の教育研究の国際交流及び研究成果を基盤とした国際社会への貢献を推進するため、山口大学国際戦略室が置かれた。

国際戦略室は、国際連携担当副学長及び教職員を構成員とし、以下の業務を行う。

- (1) 本法人の国際連携に係る企画、立案及び実施に関すること。
- (2) 国際交流に関する情報の収集、整理及び提供に関すること。
- (3) 国際協力・国際貢献活動に関すること。
- (4) 国際交流協定に基づく活動の推進に関すること。
- (5) 海外に向けた本学の国際交流に係る情報の発信に関すること。
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な事項

毎月1回構成員による国際戦略室会議を開催し、上記業務に関する事柄について協議及び情報共有を行っている。

また、国際戦略室の活動を支援する事務組織として、学生支援部国際交流課が置かれ、国際戦略室と共に本学の国際化に関する企画立案及び実施を担っている。

2. 山口大学 HP「トピックス」で見る 2019 年度の本学の国際連携活動

- THE 世界大学インパクトランキングで国内 4 位にランクインしました



イギリスの高等教育専門誌（THE: Times Higher Education）による、「THE（ティー・エイチ・イー）世界大学インパクトランキング 2019」において、山口大学は総合順位で世界 101～200 位のグループに位置、国内 4 位（国立大学では 3 位、中・四・九州地域では 1 位）となりました。

今回新たに始まったインパクトランキングは、国連が掲げる、「持続可能な開発目標（SDGs : Sustainable Development Goals）」の枠組みを通して大学の社会貢献度をランキン

グするものです。THEは、教育と研究に並ぶ大学のミッションとして知識移転と革新による社会貢献と位置付けています。

今回のランキングでは17の目標のうち11の項目について調査が行われ「総合順位」と「目的別順位」が発表されました。本学は、SDG17を含む6項目（SDG3, SDG9, SDG12, SDG13, SDG16, SDG17）にエントリーを行い、全ての項目でランクインしました。

○ スペイン王国カステジョン・デ・ラ・プラーナ市訪問団が来学

4月5日（金）、スペイン王国カステジョン・デ・ラ・プラーナ市（以下、カステジョン市）より、アンパロ・マルコ・グアル同市長及び本学と国際交流協定を締結しているカステジョン市に所在する本学大学間協定校のハイメ一世大学のホアン・マルティン・モンタネール副学長を含む訪問団計6名が本学の工学部に来訪され、三浦副学長（国際連携担当）、堤工学部長等と懇談しました。

懇談冒頭、三浦副学長より歓迎の意が表されるとともに、今後の両市の関係深化には産学官の連携が重要となると述べられ、この度のご来訪をきっかけにこれらの連携がさらに促進されることへの期待が述べられました。その後、三浦副学長から山口大学の概要説明、堤工学部長より山口大学工学部の紹介がなされ、終始和やかな雰囲気での懇談されました。懇談終了後は二手に分かれ、グアル市長は常盤キャンパスの視察、モンタネールハイメ一世大学副学長は今後の大学間の交流についての意見交換を行ないました。視察においては常盤キャンパス総合研究棟の展望ラウンジや本学の「志」イノベーション道場の視察が行なわれ、宇部市を一望できる景色や本学の先端技術に市長から感嘆の声が上がりました。大学間の意見交換においては、学生及び学術交流に関する活発な意見交換がなされ、今後の両大学の更なる交流促進に大きな期待が持てる内容となりました。

この度の訪問団の受入は、カステジョン市と宇部市が姉妹都市協定を締結したことをきっかけに実現したものです。本学は今後、ハイメ一世大学との交流をさらに活発化することを通し、カステジョン市、宇部市の友好関係構築に寄与します。





○ シーナカリンウィロート大学（タイ）より三浦副学長に表敬訪問がありました
5月13日（月）、本学の国際交流協定校であるタイのシーナカリンウィロート大学（Srinakharinwirot University）社会コミュニケーション革新学部（College of Social Communication Innovation）・学部長の Assistant Professor. Dr. Noppadol Inchan ほか9名による、三浦房紀副学長（国際連携担当）への表敬訪問がありました。

シーナカリンウィロート大学は、タイのシリントン王女も学んだ由緒ある国立大学で、1949年に高等教育機関の教員養成学校として設立されました。大学名はラーマ9世（プミポン前国王）の母親であるシーナカリンタラー＝ボーロマラーチャチョンナニー王太后に由来します。また、同大学は都心に立地しており、交通の便がよく、日本人が多く住む治安の良い地域にあります。本学は、2001年11月に同大学と協定を締結して以来、研究交流及び学生交流を活発に行っています。

表敬訪問では、まず Dr. Noppadol Inchan 学部長及び三浦副学長から、それぞれ大学紹介が行われました。その後、シーナカリンウィロート大学側から、同大学の社会コミュニケーション革新学部及び経済公共政策学部（Faculty of Business Administration for Society）と本学国際総合科学部との学生交流を促進したい旨の提案があり、具体的な事項等について、両校担当者間で活発に意見交換が行われました。

今回の来訪をきっかけに、両大学間の交流、さらには、本学にとっての重点拠点国であるタイとの交流が、より一層活発になることが期待されます。





- ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジから池田国際教育コーディネーター、
Dennis 准教授が来学されました

5月16日（木）から17日（金）に、本学が昨年度大学間国際交流協定を締結したハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ（KCC）から池田恭子国際教育コーディネーターと、Dennis Chun ハワイアンスタディーズ学科准教授による訪問がありました。池田氏は昨年7月に続いて2回目の来学となり、今回は三浦房紀副学長（国際連携担当）への表敬訪問をはじめ、本学学生を対象としたKCC説明会やこの秋に本学から交換留学生として初めてKCCに派遣する国際総合科学部生2名との懇談等を実施しました。

懇談では、学生の質問に対して一つ一つ丁寧に説明があり、Dennis 准教授から「勉学に励むだけでなく、KCCでの留学を通して自分自身のカラーを作っていってほしい」との力強いメッセージが伝えられました。

表敬訪問時には、池田氏から、協定締結後の中身の伴った実質的な交流の実施が課題となる中、山口大学とは定期的に懇談を行い信頼関係が構築される中で安心して連携・交流を行うことができ、これからもこの関係を大切にしていきたいとお言葉をいただきました。

本学学生を対象としたKCC説明会では、経済学部や国際総合科学部生を中心に35名もの学生が集まり、池田氏の英語による説明に熱心に耳を傾けていました。本学学生がKCCに留学する際には、カウアイ島山口県人会によるホストファミリーのサポートによる体制が整っていること、また座学だけではなくアクティビティを伴った授業が実施されていることなどについて、カウアイのビーチの写真とともに魅力たっぷりに紹介されました。

本学はこれからも海外協定校と連携し、きめ細やかなサポートを伴った活発な学生交流・研究者交流を推進してまいります。



三浦副学長表敬訪問



○ 駐日アラブ首長国連邦大使一行が来学

7月1日(月), 駐日アラブ首長国連邦(UAE)大使館より, カリド・オムラン・スカイト・サルハン・アルアメリ特命全権大使(以下アルアメリ大使), カマール・アリアマヒ総務部長, 井上ハキマ大使室長が本学を訪問され, 本学学生へのUAE紹介や岡正朗学長らとの懇談, 医学部附属病院視察が行われました。

アルアメリ大使からの学生へのUAE紹介では, UAEと日本との関係をはじめ, UAE経済発展の原動力として「多様性と寛容」がキーワードとして挙げられるとともに, 現在内閣で9名の女性大臣が活躍していること等が紹介されました。終了後には学生から活発な質問がなされ, 学生にとってUAEを深く理解する大きなきっかけとなりました。

続いて, 岡正朗学長, 富本幾文国際連携担当副学長補佐, 兵藤隆経済学部長との懇談では, 学食でのハラール・フードの提供や学内での礼拝場所の設置といったダイバーシティ・キャンパスを目指す本学の取り組みについて紹介が行われました。

吉田キャンパス訪問後は, 6月24日に開院した本学医学部附属病院新病棟の視察が行われ, 杉野法広病院長から臨時の治療スペースとして緊急対応できるオーディトリウムや, 屋上ヘリポートをはじめ, 山口県唯一の特定機能病院として, 高度医療の提供をはじめ, 患者さんやそのご家族が快適に過ごせるような環境づくり等の紹介がありました。

山口県訪問終了後には、アルアメリ大使から大変充実した訪問であった旨お言葉をいただきました。アルアメリ大使の訪問は、UAE 外交筋に本学の取り組みを紹介するとともに、UAE について深く理解する大変有意義な機会となりました。本学は、両国交流の発展に寄与できるよう、さらなるグローバル化を推進してまいります。



○ 在ジブチ日本国大使が本学を訪問し学長と懇談しました

7月11日（木）、在ジブチ日本国大使館の米谷光司・特命全権大使が御婦人とともに本学を表敬訪問され、本学から岡正朗学長、田中和広理事・副学長（人事労務、地域連携担当）、福田隆眞理事・副学長（教育学生担当）及び富本幾文国際連携担当副学長補佐が出迎えました。

ジブチ共和国は、面積2万3200平方キロメートル（四国の約1.3倍）で、アフリカの角に位置し、北部はエリトリア、西部と南部はエチオピア、南東部はソマリア各国と国境を接しています。米谷大使は、2017年12月に同国の特命全権大使に着任されており、今回は、2019年4月から本学に在籍しているジブチ共和国からの国費外国人留学生（研究留学生）の状況確認を兼ねて来学され、本学関係者と懇談されました。

懇談では、田中理事・副学長、福田理事・副学長及び富本副学長補佐から本学の概要について説明が行われ、米谷大使からは、ジブチ共和国の概要及び同国の教育事情等について

てご説明いただきました。また、国費外国人留学生として在学中の学生より、2019年10月から本学の大学院技術経営研究科に進学することが報告される等、終始和やかな雰囲気懇談が行われました。

本学においては、当該学生がジブチ共和国からの初めての留学生ですが、今回の大使訪問をきっかけに、外交関係が開設されてから昨年で40年を迎えた両国の学術交流がより活発に発展していくことが期待されます。



○ 台湾の大葉大学から研修生を受け入れました

8月5日（月）から6日（火）の2日間にわたり、本学大学間協定校である台湾大葉大学の教育專業發展研究所から、現職の小・中・高等学校等の教員である大学院生18名を受け入れ、日本の教育に関する研修を実施しました。日本と台湾の教育の違いについて理解を深め、研修で得た知識を自身の教員生活で生かすことを目的とした本研修は、2016年以来3度目の実施となりました。

初日は三浦房紀副学長（国際連携担当）の歓迎と激励の挨拶から始まり、中田充教育学部教授による日本のICT教育、押江隆教育学部准教授による日本の不登校問題への対応、佐々木司教育学部教授による日本の教育制度に関する講義を実施しました。研修生は時折大きく頷きながら熱心に耳を傾け、また日本との教育の違いについては驚きの声が上がっていました。

研修2日目は、岡村吉永教育学部教授による演習を交えたものづくり教育に関する講義を実施したほか、教育学部附属山口小学校を訪問し、現役教員との懇談を行いました。懇談会では、学校の教育目標から子どもたちの1日のスケジュールなど双方から途切れることなく質問が続き、最後に岡村吉永附属山口小学校長からの、国は違っても教員として目指すところは同じであることに気付かされたとのコメントで締めくくられました。

研修の最後には閉講式を行い、富本幾文副学長補佐（国際連携担当）から修了証書が一人一人に手渡しされ、研修生代表からは、研修の御礼とともに、それぞれの講義や懇談会で学んだことをしっかり役立てていきたいとの抱負が述べられました。

山口大学は、今回の研修が台湾における教育力の向上・発展の一助となることを願うとともに、今後も大葉大学をはじめとする協定校との関係深化に努めてまいります。



○ 台湾師範大学 EMBA コース訪問団が岡学長を表敬訪問

9月10日（火）、台湾師範大学・印永翔副学長を団長とする EMBA（Executive Master of Business Administration）コースの教職員及び社会人学生の訪問団総勢 35 名が、この度の来学の橋渡しをされた株式会社リテールパートナーズの田中康男代表取締役社長及びご夫人とともに、本学を表敬訪問され、本学から岡正朗学長、三浦房紀副学長（国際連携担当）が出迎えました。

今回、台湾師範大学 EMBA コースの訪問団は、日本の企業の経営手法等について学ぶためのプログラムで来日され、山口県を中心とした様々な企業を訪問されています。本学へは、本学理学部と台湾師範大学理学院が部局間国際交流協定を締結（2016年12月）していることもあり、日本の大学の現状や、国際交流活動などについて学ぶため、訪問されました。

懇談では、岡学長及び三浦副学長が、本学の概要や国際交流活動について説明を行い、印団長からも台湾師範大学の概要及び EMBA コースについて、ご説明いただきました。懇談後は、和やかな雰囲気で行われた両校からの記念品の交換や写真撮影が行われました。

本学では、今後も台湾師範大学をはじめとする協定校との関係深化に努めてまいります。



○ JICA 国別研修マレーシア「技術経営研修」を実施しました

山口大学大学院技術経営研究科では、JICA による国別研修マレーシア「技術経営研修」として、マレーシア工科大学日本マレーシア国際工科院 (MJIT) 強化プロジェクトにおける技術経営研修を受託し、8月26日(月)から9月6日(金)までの2週間に渡って、MJIT の教員と大学院生を対象に知的財産データベースを活用した分析と応用に関する研修を実施しました。

本研修は、MJIT での教育・研究活動における知財活用の浸透に資するものであり、さらに、本研修の成果として国際連携講座における知的財産データベースを中心とした国際共同研究体制の整備が促進されることが期待されます。



○ 共同獣医学部にガジャマダ大学国際共同事務局との間の TV 会議システムを設置しました

9月20日(金)、本学の国際交流協定校であるガジャマダ大学(インドネシア)との国際共同事務局の開所式典があり、同時に TV 会議システムの開通セレモニーが行われ、本学から岡正朗学長、福田隆真副学長(教育学生担当)、三浦房紀副学長(国際連携担当)、佐藤晃一共同獣医学部長ほか9名が出席しました。

ガジャマダ大学は、1949年に設置されたインドネシアのジョグジャカルタにある国立大学で、18の学部を持つ総合大学です。ガジャマダ大学と本学は、平成20年10月に大学間国際交流協定締結以来、学生の留学や、教職員の研修をはじめとした様々な交流を継続して行っているところです。

共同獣医学部では、「インドネシアにおける国際的獣医学教育研究者育成プログラムの構築」事業で、文部科学省の機能強化経費の採択を受けており、欧州獣医学認証(EAEVE)取得に向けて構築してきた国際通用性のある獣医学教育プログラムを基にインドネシアにおける獣医学教育研究者育成プログラムを構築し、アジアにおける獣医学教育プログラムの標準化を目指しています。

今回設置した TV 会議システムを活用することで、双方の担当者間による協議が進むとともに、実際のコンテンツの提供をはじめとする教育実施のデモンストレーションが可能となり、教育プログラム構築作業の迅速化が図られます。



○ 山口大学・ガジャマダ大学国際共同事務局を開設しました

9月20日（金）、本学の大学等間国際交流協定校であるガジャマダ大学（インドネシア・ジョグジャカルタ）に国際共同事務局を開設し、ガジャマダ大学獣医学部創立73周年記念と合わせて開所式典が実施され、本学から岡正朗学長、福田隆真副学長（教育学生担当）、三浦房紀副学長（国際連携担当）、佐藤晃一共同獣医学部長ほか9名が出席しました。

本学とガジャマダ大学は、2008年2月に部局間国際交流協定（本学大学院連合獣医学研究科とガジャマダ大学獣医学部）を締結しました。その後、交流は他学部へも広がり、2008年10月には大学等間国際交流協定へと格上げされました。それから10年以上、研究者交流を中心に活発に交流を実施し、この度、両大学間で特に交流の深い獣医学分野を中心に本学のインドネシアでの拠点として、両大学の国際共同事務局を設置することとなりました。式典には、ガジャマダ大学の Prof. Panut Mulyono 学長、Prof. Dr. Siti Isrina Oktavia Salasia 獣医学部長も参加され、様々なプログラムが盛大に行われました。

また、式典翌日の9月21日（土）には、山口大学インドネシア同窓会の発足式がジョグジャカルタ市内で開催されました。当日は、遠方からの同窓生も含め約30名が出席のもと、同窓会設立について会合が行われ、2017年に大学院東アジア研究科を修了したDr. Achmad Ubaidillah（現インドネシア大統領秘書官）が同窓会会長に選出されました。会合後は、本学教職員との交流会が行われ、昔話に花を咲かせ交流を深めていました。

ガジャマダ大学との国際共同事務局設置及び山口大学インドネシア同窓会設立により、本学にとっての重点拠点国であるインドネシアとの交流がより活発になることが期待されます。そして、これからも協定校及び同窓生との関係を大切にし、友好関係が続くよう取り組んでまいります。



○ ロンドンで日英饗応料理についての講演を行いました

山口学研究プロジェクト「山口・食の温故知新 ～長州食材・料理を復活し新たな価値を見出す～」の一環として、9月16日にロンドンで開催されたJapan Societyのイベントにおいて、教育学部の五島淑子教授とアンドリュー・セネック助教が講演を行いました。

タイトルは、「The Art of Culinary Diplomacy in the Mid-19th Century. Britain and Japan at the Table」。内容は、幕末の三田尻（現在の防府市）において毛利敬親父子とイギリスの東洋艦隊司令官キング提督が会見したときに食した、日英饗応料理の献立の再現についてです。とくに幕末のおもてなし料理について日英の比較を行いました。

講演は、ロンドンにあるThe Swedenborg Societyで行われましたが、参加者は100名を超え、講演後には活発な質疑応答がなされ、食に対する関心の高さがうかがえました。講演会終了後には、山口大学の日本酒「長州学舎」と、防府市のかまぼことちくわを試食していただき、なごやかな会となりました。



○ エディンバラ大学（イギリス）より岡学長及び三浦副学長に表敬訪問がありました

12月6日（金）に、本学の国際交流協定校である、エディンバラ大学（The University of Edinburgh）（イギリス）より、同大学の前獣医学部長である Professor David Argyle が来学し、岡正朗学長及び三浦房紀副学長を表敬訪問しました。

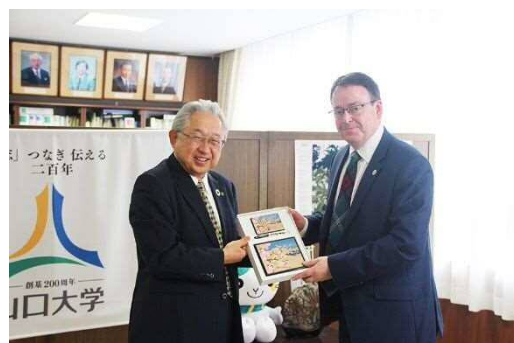
表敬訪問の場では、岡学長から、山口大学の概要として本学の沿革やビジョン、教育面での取り組みとして、知財教育やデータサイエンスなどに関する説明があり、Professor David Argyle 前獣医学部長から、エディンバラ大学獣医学部の紹介がありました。

また、三浦副学長から、本学のインドネシアでの獣医学分野における活動状況などの説明

があり、佐藤共同獣医学部長から、エディンバラ大学との教育面での連携などの意見があった後、研究面での交流などについて懇談が行われました。

最後に、岡学長と Professor David Argyle 前獣医学部長との記念品の交換がされ、終始和やかな雰囲気での懇談が終了しました。

今回の訪問をきっかけに、エディンバラ大学と本学との交流活動の活発化、獣医学分野での教育・研究活動の交流がより一層充実することが期待されます。



○ SDGs トークショーを開催しました

2019年12月12日(木)、吉田キャンパス総合図書館アカデミックフォレストにおいて、SDGs トークショーを開催しました。SDGs (Sustainable Development Goals) とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない (leave no one behind) ことを誓っています。

本学においても、SDGs 達成に貢献するため、日々の様々な教育研究活動を行っています。今回は、独立行政法人国際協力機構（JICA）と大学が連携し、SDGs 達成に貢献するための啓発活動の一環として、JICA 中国センター所長・三角幸子氏を招き「やまぐち@SDGs –SDGs 達成に向けた JICA と大学の連携について–」と題して、SDGs トークショーを開催しました。トークショーは、三浦国際連携担当副学長の挨拶で始まり、第1部トークショーでは、三角所長から、SDGs に対する日本政府の取組や SDGs に対する大学を含めた国内の動向について説明があり、本学が SDGs 大学ランキングで国内第4位グループに入ったことについてもご紹介いただきました。富本国際連携担当副学長補佐（経済学部・特命教授）からは、SDGs 達成に貢献するための本学の活動の紹介が行われました。第2部トークショーでは、本学の教員及び学生から、それぞれが行っている SDGs に対する活動などについて紹介がありました。本学の「おもしろプロジェクト」で採択され、SDGs のテーマに沿って山口県内の各地域を訪問し、留学生の目から見た県内の魅力や課題の解決方法などが検討された「留学生のためのバス・ツアー」の成果発表は、真新しい取組であったため、参加者は大きな興味・関心を示していました。

今回のトークショーには、本学の教職員及び学生だけでなく、市民、企業、NGO、行政機関の方々など一般からの参加も多数あり、SDGs に対する関心の高さが伺えました。SDGs には個人の心掛けひとつで貢献できることがたくさんあります。本学では、多くの方に SDGs に対して関心を持ってもらえるよう、これからもこのような啓発活動を行うとともに、関係機関や地域と連携し、SDGs 達成に向けて社会貢献を行っていきます。



-
- 駐日米国臨時代理大使と在福岡首席領事他が山口に来訪，山口県内の大学関係者と懇談しました

1月15日(水)，在日米国大使館のジョセフ・M・ヤング臨時代理大使，在福岡米国領事館のジョン・テイラー首席領事，ユキ・近藤シャー広報担当領事，カグノ麻衣子 広報部/福岡アメリカン・センター広報担当官(留学担当)が山口に来訪，山口県内の大学関係者と昼食を挟んで懇談しました。山口県内の大学からは中村幸士郎本学名誉教授(山口日米協会副会長)，西田純子本学国際アドバイザー(日本ハワイ移民資料館カルチュラルアドバイザー)，富本幾文本学教授(特命，国際連携担当副学長補佐)および，梅光学院大学清水哲生副学長(国際交流部長)が参加しました。

中村名誉教授からは山口日米協会の林芳正会長からの来訪歓迎のメッセージが伝えられ，ヤング臨時代理大使からは同日米協会10周年記念への祝辞が述べられました。また，臨時代理大使からは米国に留学する日本人学生が減少傾向にあり，ぜひ山口県内の大学から多くの留学生を米国に派遣してもらいたいとの要望がありました。これに対し，本学西田国際アドバイザーからはハワイ在住の山口県人会の支援によりハワイ州への本学留学が増加している事が紹介され，梅光学院大学の清水副学長からは同大学の概要と海外留学の状況などが紹介されました。また，富本本学教授(特命)からは，本学の概要と海外の提携校との連携状況，山口県の米国との歴史的繋がりやインバウンド観光の重要性などについて説明し，次の駐日大使が正式に着任された際には，ぜひ山口県にご来訪いただきたいと要望しました。

その後，同臨時代理大使一行は村岡山口県知事を表敬訪問されました。



-
- インドネシアのウダヤナ大学で「Seminar on Wastewater Treatment Technology and Management in Bali」が開催されました

2月3日(月曜日)，インドネシアのウダヤナ大学で「Seminar on Wastewater Treatment Technology and Management in Bali」が大澤高浩准教授(山口大学先進科学・イノベーション研究センター)のコーディネートで開催されました。当日はウダヤナ大学の教員，学生，

環境林業省の職員，バドゥン県の環境局の職員，バリ島のデンパサール周辺のホテルの水浄化担当者等の合計約 200 名が参加しました。

このセミナーは宇部市の地元企業（環境産業）の㈱アースクリエイティブ社（代表取締役：栗原和実氏），山口大学（大澤准教授，創成科学研究科循環環境工学分野 今井剛教授），アイ・シー・ネット㈱が共同で採択された環境省のアジア水環境改善モデル事業「インドネシア・バリ州における液膜曝気システムと IoT 監視センサー導入による生活排水の適正管理」の一環として行われました。

開会挨拶はウダヤナ大学大学院長の I Putu Gede Adiatmika 教授からいただきました。引き続き，アースクリエイティブ社代表取締役の栗原氏より趣旨説明がなされ，ウダヤナ大学の I Wayan Budiarsa Suyasa 教授，本学の今井剛教授，環境林業省ジャワ州支局の Awan Erry Sofyar I.氏，公共事業省バドゥン県支局の Bapak Ida Bagus Lanang Suardana 氏，アースクリエイティブ・インドネシア社の Akmad Rivai 氏，インドネシアの浄化槽メーカーのダイキ・アクシス・インドネシア社の Dara Rizqi Isnaini Armadani 氏からバリの水環境の現状，水環境保全のための水浄化技術，水浄化プラントのメンテナンスの重要性など多岐にわたる講演が行われました。各講演に対して，極めて活発な質疑応答がなされ，大変充実したシンポジウムになりました。



○ 獣医学研究における連携強化のための「第 4 回 AJIVE シンポジウム」が開催されました

インドネシアの獣医系大学と山口大学大学院連合獣医学研究科（共同獣医学部・共同獣医学研究科）の教育・研究交流を図るため，2017 年から始まった本シンポジウムも 4 回目となり，インドネシア・バリ島のウダヤナ大学獣医学部において 2020 年 2 月 13 日（木）に開催された。本シンポジウムは，インドネシアー日本双方の教員の共同研究関係を確立して発展させること，インドネシアにおける次世代の教員候補者が，日本において学位取得するための協力関係を築くことを目的として設置され，前回から，山口大学と『Association of Japan-Indonesia Veterinary Education (AJIVE)』の共催となっている。

今回は、AJIVEの役割を具体化するため、定款（BYLAW）を定め、三浦房紀副学長（国際連携担当）立ち会いのもと、Executive Committeeメンバー（山口大学、ボゴール農科大学、ガジャマダ大学、アイルランガ大学）の学部長による調印を行った。

シンポジウムでは、三浦副学長の挨拶から始まり、引き続き、山口大学、鳥取大学、岐阜大学の研究科紹介とインドネシア各大学の学部長等による獣医学部の紹介が行われた。その後、2つのセッションに分かれた各大学の口頭発表及びポスター発表が行われた。各セッションでは、研究内容に係る質疑応答が活発に行われ、両国の参加者において各研究分野での協力関係を進展させていくことについて、熱心に話し合われた。

最後に、今後も日本からのさらなる参加校を募り、インドネシアと日本の獣医学教育研究を活性化させるとともに、日本への留学生派遣を活性化していくことが合意された。また、次回のシンポジウムは、来年（2021年）2月にハサヌディン大学（スラウェシ島、マカッサル）で開催することが確認され、盛会のうちに終了した。



3. 国際交流協定

(1) 2019 年度の国際交流協定の締結等

2019 年度は国際交流協定を 16 大学・機関(大学等間 6 大学, 学部間 10 大学・機関) と締結し, 32 の大学・機関(大学 22 大学, 学部間 10 大学・機関)と更新した。

その結果, 2020 年 3 月末現在で, 山口大学は大学等間では 24 カ国・地域の 108 大学・機関と国際交流協定を締結し, 学部等間では 9 学部, 4 研究科が 26 カ国・地域の 64 大学・機関と国際交流協定を締結している。

(2) 大学等間国際交流協定

国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流覚書
インドネシア	ブラウイジャヤ大学 (Brawijaya University)	2008.04.15	有
	ガジャマダ大学 (Gadjah Mada University)	2008.10.14	
	ボゴール農科大学 (Bogor Agricultural University)	2010.03.10	
	ウダヤナ大学 (Udayana University)	2010.03.25	有
	バンドン工科大学 (Bandung Institute of Technology)	2012.05.25	有
	インドネシア大学 (University of Indonesia)	2015.12.16	有
	地理空間情報庁 (Geospatial Information Agency)	2016.07.20	
	財務省財政均衡総局 (Directorate General of Fiscal Balance, Ministry of Finance)	2016.01.21	
	シャリフ・ヒダヤトゥラー イスラム宗教国立大学 (Syarif Hidayatullah State Islamic University Jakarta)	2018.10.18	
	スブラス・マレット大学 (Universitas Sebelas Maret)	2019.10.10	
韓国	仁荷大学校 (Inha University)	1998.06.25	有
	公州大学校 (Kongju National University)	1999.03.15	有
	韓国外国語大学校 (Hankuk University of Foreign Studies)	2003.12.02	有
	慶尚大学校 (Gyeongsang National University)	2004.11.26	有
	ソウル市立大学校 (University of Seoul)	2009.12.21	有
	昌原大学校 (Changwon National University)	2010.02.10	有
	ソウル大学校 (Seoul National University)	2010.02.11	有
	亜州大学校 (Ajou University)	2010.03.08	有
	梨花女子大学校 (Ewha Womans University)	2010.03.08	有
	群山大学校 (Kunsan National University)	2010.04.26	有
	釜山外国語大学校 (Busan University of Foreign Studies)	2014.12.04	有
	全北大学校 (Chonbuk National University)	2015.09.16	有
	忠北大学校 (Chungbuk National University)	2016.12.23	有
	タイ	カセサート大学 (Kasetsart University)	1998.07.03
ソンクラ王子大学 (Prince of Songkla University)		2001.10.29	有
コンケン大学 (Khon Kaen University)		2001.10.30	有
チェンマイ大学 (Chiang Mai University)		2001.10.31	有
シーナカリンウィロート大学 (Srinakharinwirot University)		2001.11.01	有

国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流覚書
タイ	タイ国農学研究機構 (Agricultural Research Development Agency)	2008.08.27	
	チュラロンコン大学 (Chulalongkorn University)	2010.09.14	
	キングモンクット工科大学ラカバン校 (King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang)	2018.08.10	
中国	山東大学 (Shandong University)	1983.06.02	有
	北京師範大学 (Beijing Normal University)	2004.02.09	有
	武漢理工大学 (Wuhan University of Technology)	2004.05.20	有
	貴州大学 (Guizhou University)	2005.03.25	有
	重慶理工大学 (Chongqing University of Technology)	2010.11.19	有
	首都師範大学 (Capital Normal University)	2011.10.17	有
	江蘇大学 (Jiangsu University)	2013.09.03	有
	大連外国語大学 (Dalian University of Foreign Languages)	2013.12.30	有
	西安交通大学 (Xi'an Jiaotong University)	2015.04.28	有
	香港樹仁大学 (Hong Kong Shue Yan University)	2015.07.20	有
	香港教育大学 (The Education University of Hong Kong)	2015.09.02	有
	遼寧師範大学 (Liaoning Normal University)	2016.03.15	有
	浙江理工大学 (Zhejiang Sci-Tech University)	2017.01.03	有
	湖州師範大学 (Huzhou University)	2017.02.28	有
台湾	国立中興大学 (National Chung Hsing University)	2006.03.09	有
	東海大学 (Tunghai University)	2009.09.30	有
	逢甲大学 (Feng Chia University)	2009.09.30	有
	大葉大学 (Dayeh University)	2009.09.30	有
	静宜大学 (Providence University)	2009.09.30	有
	開南大学 (Kainan University)	2012.10.15	有
	国立高雄師範大学 (National Kaohsiung Normal University)	2014.11.18	有
	淡江大学 (Tamkang University)	2016.12.29	有
ベトナム	カントー大学 (Can Tho University)	2011.11.16	有
	ベトナム国立農業大学 (Vietnam National University of Agriculture)	2012.03.29	有
	ベトナム国家大学ホーチミン市校 国際大学 (International University - Vietnam National University in Ho Chi Minh City)	2015.07.21	有

国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流覚書
ベトナム	国立ハノイ教育大学 (Hanoi National University of Education)	2015.07.22	有
	東部国際大学 (Eastern International University)	2015.12.07	有
	ダナン科学技術大学 (University of Science and Technology, The University of Danang)	2017.07.05	有
マレーシア	サラワク大学 (University Malaysia Sarawak)	2012.03.29	有
	マレーシア工科大学 (University of Technology, Malaysia)	2012.09.05	有
	クアラルンプール大学 (University of Kuala Lumpur)	2016.07.13	有
	マラ工科大学 (University of Technology MARA)	2017.07.05	有
ラオス	ラオス国立大学 (National University of Laos)	2012.04.12	有
ミャンマー	イエジン農業大学 (Yezin Agricultural University)	2015.01.12	
イギリス	シェフィールド大学 (University of Sheffield)	1997.11.28	有
	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン (University College London)	2007.11.19	
	セントラル・ランカシャー大学 (University of Central Lancashire)	2012.11.05	(協定書内に 学生交流に関 する記載有)
	エディンバラ大学 (The University of Edinburgh)	2018.11.12	
	バース大学 (University of Bath)	2019.08.05	有 (医学部)
ドイツ	フリードリヒ・アレクサンダー大学 エアランゲン・ニュルンベルク (Friedrich-Alexander University Erlangen- Nuremberg)	2003.03.17	有
	ホフ大学 (Hof University of Applied Sciences)	2015.03.16	有
	ベルリン・ボイト工科大学 (Beuth University of Applied Sciences Berlin)	2015.08.17	有
フランス	リール第3大学 (Lille 3 University)	2015.10.16	有
	リール・カトリック大学 (Lille Catholic University)	2016.01.20	有
	ボルドー大学 (The Univeristy of Bordeaux)	2019.09.13	有
スペイン	サラゴサ大学 (University of Zaragoza)	2014.11.27	有
	バルセロナ自治大学 (Autonomous University of Barcelona)	2015.09.14	
	ハイメ I 世大学 (Jaume I University)	2017.10.26	有
ハンガリー	エトヴェシュ・ロラーンド大学 (Eotvos Lorand University)	2015.05.25	(協定書内に 学生交流に関 する記載 有)
	カーロリ大学 (Károli Gáspár University of the Reformed Church in Hungary)	2015.08.18	有 (国際総合 科学部)

国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流覚書
ロシア	モスクワ大学 (M.V. Lomonosov Moscow State University)	2015.03.05	
	ロシア工科大学 (MIREA - Russian Technological University)	2015.11.26	
	ロシア国立農業大学 モスクワ・ティミリャーゼフ農業アカデミー (Russian State Agrarian University - Moscow Timiryazev Agricultural Academy)	2017.09.07	
リトアニア	ヴァイタウタス・マグヌス大学 (Vytautas Magnus University)	2015.09.03	有
デンマーク	サザンデンマーク大学 (University of Southern Denmark)	2016.05.26	有
アメリカ 合衆国	オクラホマ大学 (University of Oklahoma)	1996.02.19	有
	ハワイ大学ヒロ校 (University of Hawai'i at Hilo)	2015.02.25	
	中央フロリダ大学 (University of Central Florida)	2015.04.16	有
	カリフォルニア州立大学ポリテクニク大学ポモナ校 (California State Polytechnic University, Pomona)	2015.03.20	
	フィッチバーグ州立大学 (Fitchburg State University)	2015.12.21	有
	イーストウエストセンター (East-West Center)	2018.05.16	
	ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ (University of Hawai'i Kaua'i Community College)	2018.08.07	有
	マンハッタンビル大学 (Manhattanville College)	2016.07.19	有
	ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ (University of Hawai'i Kapi'olani Community College)	2019.05.13	
カナダ	リジャイナ大学 (University of Regina)	1996.02.07	有
チリ	バルバライソ大学 (University of Valparaiso)	2015.07.02	有
	コンセプション大学 (University of Concepcion)	2016.01.13	有
ブラジル	サンパウロ大学 (University of São Paulo)	2018.02.19	
	サンパウロ・ボンティフィシア・カトリック大学 (Pontifical Catholic University of São Paulo)	2018.02.27	
ペルー	ペルー国立工科大学 (National University of Engineering)	2016.09.20	
	ラ・モリーナ国立農業大学 (La Molina National Agrarian University)	2017.06.06	有
	国立サンマルコス大学 (National University of San Marcos)	2017.08.28	有
	サン・イグナシオ・デ・ロヨラ大学 (Saint Ignatius of Loyola University)	2017.08.29	有
	ペルー国家防災庁 (National Institute of Civil Defense (INDECI))	2017.08.29	
オースト ラリア	ニューカッスル大学 (University of Newcastle)	2003.08.08	有
	シドニー工科大学 (University of Technology, Sydney)	2012.05.30	有
ニュージ ーランド	リンカーン大学 (Lincoln University)	2015.11.11	有

(3) 部局等間国際交流協定

国・地域名	締結部局	機関名 (英語表記)	締結 年月日	学生 交流 覚書
インド ネシア	工学部	マランイスラム大学 医学部 (Faculty of Medicine, Islamic University of Malang)	2014.06.27	
		マランイスラム大学 農学部 (Faculty of Agriculture, Islamic University of Malang)	2014.06.27	
		マランイスラム大学 工学部 (Faculty of Engineering, Islamic University of Malang)	2015.07.31	
		リアウ大学 工学部 (Faculty of Engineering, Riau University)	2014.12.24	有
	共同獣医学 部	アイルランガ大学 獣医学部 (Faculty of Veterinary Medicine, Airlangga University)	2018.07.04	有
	理工学 研究科	国家防災庁 データ・情報・広報センター (Center of Data, Information and Public Relations, National Disaster Management Agency)	2016.01.21	
韓国	理学部	韓国天文研究院 電波天文研究部 (Radio Astronomy Division, Korea Astronomy and Space Science Institute)	2010.03.15	
	工学部	又松大学校 鉄道物流学部 (College of Railroad and Transportation, Woosong University)	2010.02.01	
	医学部	チェジュハラ大学看護学部及び保健学部 (The School of Nursing and school of Health Sciences Cheju Halla University)	2019.6.5	
タイ	医学部	マヒドン大学 看護学部 (Faculty of Nursing, Mahidol University)	2001.03.26	
	農学部	キングモンクット工科大学 トンブリ校 生物資源工学研究科 (School of Bioresources and Technology, King Mongkut's University of Technology Thonburi)	2006.05.23	有
		タクシン大学 技術・地域開発学部 Faculty of Technology and Community Development, Thaksin University)	2012.01.16	
		メージョー大学 農学生産学部 (Faculty of Agricultural Production, Maejo University)	2012.02.23	有
		ラジャマンガラ工科大学 農業産業技術学部 (Faculty of Agro-Industrial Technology, Rajamangala University of Technology Tawan-ok)	2013.07.11	有
		メーファールアン大学 理学部 (School of Science, Mae Fah Luang University)	2016.01.04	有
	工学部	シラパコーン大学 工学・産業技術学部 (The Faculty of Engineer and Industrial Technology, Silpakorn University)	2019.05.09	
中国	教育学部	復旦大学 情報科学工程学院 (School of Information Science and Engineering, Fudan University)	2005.09.23	有
	経済学部	中国人民大学 経済学院 (School of Economics, Renmin University of China)	2001.06.03	有
		復旦大学 日本研究センター (Center for Japanese Studies, Fudan University)	2019.11.04	
	医学部	大連医科大学 (Dalian Medical University)	2006.12.14	
	工学部	上海交通大学 環境科学与工程学院 (School of Environmental Science and Engineering, Shanghai Jiao Tong University)	2004.02.11	
		西華大学 (Xihua University)	2007.02.05	有
		四川大学錦江学院 (Jinjiang College, Sichuan University)	2019.06.20	有
	国際総合 科学部	山東農業大学 外国語学院 (College of Foreign Languages, Shandong Agricultural University)	2016.03.15	有
東アジア 研究科	復旦大学 日本研究センター (Center for Japanese Studies, Fudan University)	2001.10.29		

国・地域名	締結部局	機関名 (英語表記)	締結 年月日	学生 交流 覚書
台湾	経済学部	国立高雄餐旅大学 (National Kaohsiung University of Hospitality and Tourism)	2012.03.09	有
	医学部	国立台湾大学 医学院 (College of Medicine, National Taiwan University)	2009.04.01	
	理学部	国立台湾大学 理学院 (College of Science, National Taiwan University)	2017.5.22	
		台湾師範大学 理学院 (College of Science, National Taiwan Normal University)	2016.12.30	
	教育学部	淡江大学 文学院 (College of Liberal Arts, Tamkang University)	2013.07.23	有
	人文学部	東呉大学 人文社会学部 (School of Liberal Arts and Social Sciences, Soochow University)	2014.09.19	
マレーシア	工学部	ペトロナス工科大学 (Petronas Technological University)	2018.10.11	有
		マレーシア・プトラ大学 (University Putra Malaysia)	2020.03.26	
モンゴル	共同獣医学部	モンゴル国立生命科学大学獣医学研究所 (Institute of Veterinary Medicine, Mongolian University of Life Sciences)	2015.11.13	
ネパール	連合獣医学研究科	農業林業大学 畜産獣医水産学部 (Faculty of Animal Science, Veterinary Science and Fisheries, Agriculture and Forestry University)	2015.03.05	
	経済学部	ネパール行政職員大学 (The Nepal Administrative Staff College)	2020.01.24	
バングラデシュ	理学部	バングラデシュ核エネルギー食物・放射線生物学研究所 (Institute of Food and Radiation Biology, Atomic Energy Research Establishment)	2000.05.04	
	農学部	ジャハンギナガール大学 生物科学部 (Faculty of Biological Science, Jahangirnagar University)	2012.03.06	有
ベトナム	共同獣医学部	ベトナム農業農村開発省畜産研究所 (National Institute of Animal Science, Ministry of Agriculture and Rural Development)	2012.07.24	
	理学部	フエ大学 理学部 (Hue University of Sciences, Hue University)	2017.04.18	有
スリランカ	農学部	スリランカ農業局及びペラデニア大学農学研究科 (Department of Agriculture, Sri Lanka & Postgraduate Institute of Agriculture, University of Peradeniya)	2016.03.03	
インド	経済学部	カルカッタ大学 経済学部 (Department of Economics, University of Calcutta)	2019.02.08	
		カルカッタ大学 商学・福祉・経営学群 (Faculty of Commerce, Social Welfare and Business Management, University of Calcutta)	2019.02.08	
	工学部	クルクシェトラ工科大学 (National Institute of Technology, Kurukshetra)	2017.01.11	
フィリピン	共同獣医学部	ダバオ・オリエンタル州立大学 海浜生物環境センター (Regional Integrated Coastal Resource Management Center-RegionXI of the Davao Oriental State University)	2019.09.23	
トルコ	工学部	ダンルピナー大学 工学部 (Faculty of Engineering, Dumlupinar University)	2015.05.20	
		シェヒル大学 工学・自然科学部 (College of Engineering and Natural Sciences, Istanbul Sehir University)	2017.04.19	有
	経済学部	カディル・ハス大学 経済・行政・社会科学部 (The Faculty of Economics, Administrative and Social Sciences, Kadir Has University)	2019.06.29	
ウクライナ	教育学部	イヴァン・フランコ記念リヴィウ国立大学 (Ivan Franko National University of L'viv)	2004.11.16	有
イギリス	工学部	ブリストル大学 工学部 (Faculty of Engineering, University of Bristol)	2010.03.01	

国・地域名	締結部局	機関名 (英語表記)	締結 年月日	学生 交流 覚書
ロシア	医学部	カザン医科大学 (Kazan State Medical University)	2012.12.17	
ポルトガル	工学部	新リスボン大学 理工学部 (Faculty of Science and Technology, New University of Lisbon)	2013.08.08	有
スペイン	工学部	カンタブリア大学 産業工学通信学部 (School of Industrial Engineering and Telecommunications, University of Cantabria)	2015.02.25	有
スイス	国際総合 科学部	ベルン応用科学大学 経営管理学部 (School of Business, Bern University of Applied Sciences)	2015.09.03	有
オランダ	農学部	ワーゲニンゲン大学 オランダ大遺伝資源センター (Centre for Genetic Resources, the Netherlands (CGN))	2017.04.01	
ケニア	共同獣医学 部	ナイロビ大学 獣医学部 (Faculty of Veterinary Medicine, University of Nairobi)	2017.06.30	
アメリカ合衆 国	国際総合 科学部	エルジンコミュニティカレッジ (Elgin Community College)	2015.07.28	(協定 書内 に学 生交 流に 関す る記 載 有)
	医学部	シティ オブ ホープ (City of Hope)	2017.08.01	
	医学系研究 科	カンザス大学 メディカルセンター (The University of Kansas Medical Center, The University of Kansas)	2017.08.11	
カナダ	医学部	ニューファンドランドメモリアル大学 (Memorial University of Newfoundland)	2019.07.09	有
アルゼンチン	農学部	ラプラタ大学 理学部 (Faculty of Science, National University of La Plata)	2011.04.27	
		公立ミシオネス大学 精密自然科学部 (Faculty of Exact, Chemical and Natural Sciences, National University of Misiones)	2018.10.16	
オーストラリア	連合獣医学 研究科	西オーストラリア大学 農学研究科 (The UWA Institute of Agriculture, University of Western Australia)	2015.10.22	
ニュー ー ラ ン ド	農学部	ニュージーランド作物・食物研究所 (New Zealand Institute for Plant & Food Research Limited)	2008.09.03	
	経済学部	ワイカト大学会計・ファイナンス・経済学部 (School of Accounting, Finance, and Economics, The University of Waikato)	2019.09.20	

4. 海外拠点

本学では海外協定校の協力のもと、外国の教育研究機関との相互交流の推進及び本学の情報発信等を目的とし、6カ国・地域の計6ヶ所に国際連携オフィスを設置している。その内インドネシア、台湾、マレーシア、タイの4つの拠点事務所に現地スタッフを配置し、現地の優秀な学生獲得に向けた広報活動、本学派遣学生の留学支援や同窓会活動の支援等を行っている。

2019年9月には本学の大学等間国際交流協定校であるガジヤマダ大学（インドネシア・ジョグジャカルタ）に、両大学間で特に交流の深い獣医学分野を中心に本学のインドネシアでの拠点として、国際共同事務局を開設した。

- ① 「山口大学 山東国際連携オフィス」
住所：中国 250100 山東省済南山大南路 27 号 山東大学内
- ② 「山口大学 バリ国際連携オフィス」
住所：Udayana University
Jl.P.B Sudirman Campus Gedung FISIP 2F Denpasar Bali Indonesia
- ③ 「山口大学 台湾国際連携オフィス」
住所：台湾 51591 彰化県大村郷学府路 168 号 大葉大学内
- ④ 「山口大学 クアラルンプール国際連携オフィス」
住所：Malaysia-Japan International Institute of Technology (MJIIT)
Universiti Teknologi Malaysia Kuala Lumpur Campus
Jalan Sultan Yahya Petra, 54100, Kuala Lumpur Malaysia
- ⑤ 「山口大学 バンコク国際連携オフィス」
住所：Kasetsart University
50 Ngam Wong Wan Rd, Ladyao Chatuchak Bangkok, 10900, Thailand
- ⑥ 「山口大学 ハノイ国際連携オフィス」
住所：Vietnam National University of Agriculture
Trau Quy-Gia Lam-Ha Noi-Viet Nam

(国際共同事務局)

「山口大学・ガジヤマダ大学国際共同事務局」

住所：Universitas Gadjah Mada

Jl. Fauna No.2, Karangmalang, Yogyakarta, Indoensia

5. 本部への海外からの来訪者

日時	訪問者	国・地域
2019/4/5	カステジョン・デ・ラ・プラーナ市訪問団 DÑA.AMPARO MARCO GUAL MAYORESS 市長ほか5名	スペイン
2019/4/22	ハワイ・ジャパニーズセンター Arnold T. Hiura, Hawaii センター長ほか2名	米国
2019/5/13	シーナカリンウィロート大学 Noppado Inchan 社会コミュニケーション革新学部長 ほか9名	インドネシア
2019/5/16	ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ 池田恭子 国際教育コーディネーター ほか1名	米国
2019/7/1	駐日本国アラブ首長国連邦大使館 Khaled Omran Sqait Sarhan Alameri 特命全権大使 ほか2名	
2019/7/11	在ジブチ共和国日本大使館 米谷光司 特命全権大使	ジブチ
2019/9/10	台湾師範大学 印永翔 副学長 ほか34名	台湾
2019/10/31	中南民族大学 Du Dongyun 副学長 ほか3名	中国
2019/11/26	ユニバーシティ・カレッジ・オブ・ロンドン David Eric Alexander 減災研究所教授	英国
2019/12/6	エディンバラ大学 David Argyle 獣医学部教授	英国

6. 本学学長の海外訪問

訪問日程	訪問先・内容（訪問者）	国・地域名
2019年9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ガジャマダ大学訪問 ・インドネシア同窓会設立会合出席 ・ウダヤナ大学訪問 ・ The 10th International Conference on Bioscience and Biotechnology 基調講演 ・在デンパサール日本国総領事館訪問 	インドネシア

7. 海外協定校・海外ネットワークとの連携

(1) インドネシアとの連携

2019年10月10～11日に開催された第5回日本・インドネシア学長会議に学長、福田大学教育機構長、及び三浦副学長(国際連携担当)が出席した。今回は「Collaboration in Research and Education for Sustainable and Peaceful Society」をテーマとし、教育、研究、及び産官学の3分野におけるインドネシアとの連携について、各分科会が実施された。本学からは、産官学分野での連携をテーマとした分科会にて、三浦副学長が共同座長を務めたほか、講演者として、JICA「中小企業海外展開支援事業(案件化調査)」における県内企業、インドネシアの大学・政府機関、及び本学の3者協働による本学の取組事例の発表を行った。

加えて、共同獣医学部がインドネシアの獣医系大学との第4回AJIVE(Association of Japan - Indonesia Veterinary Education)シンポジウムを2020年2月13日に開催した。今回は、AJIVEの役割を具体化するため、定款(BYLAW)を定め、三浦房紀副学長(国際連携担当)立ち会いのもと、Executive Committeeメンバー(山口大学、ボゴール農科大学、ガジャマダ大学、アイルランガ大学)の学部長による調印を行った。

(2) 山東大学との連携

交流開始から40年を迎えた本学の協定校である中国・山東大学にて、2019年10月20～24日に開催された、「2019 Shandong University Global Partners Week」に招待され、本学からはSD研修の一環として事務職員2名が出席した。同イベントは、山東大学の世界各地にある協定校を同大学に招待し、更なる交流を深めることを目的として開催され、各大学の国際戦略や進んだ取組事例の紹介・意見交換が実施された。また、同大学の学生を対象とした留学フェアも開催され、ブース出展や大学紹介プレゼンを行い、本学のPR活動も行った。

(3) JICA イノベーターアジアプログラム

国際協力機構(JICA)が実施する、イノベーターアジアプログラムの対象大学に本学がリストアップされたことより、平成30年後期から海外協定校等から留学生4名の大学院受け入れが始まり、協定校等との連携により優秀な留学生の獲得を実現し、情報技術分野での高度外国人材の育成と協定校との連携強化を行うことが出来た。

(4) アメリカ合衆国ハワイ州の学術機関・山口県人会との連携

2019年9月17～20日に、経済学部観光政策学科がハワイ島ヒロにてプロジェクト演習を実施した。ハワイ島山口県人会のメンバーが経営する農園の訪問や、県人会との交流、及びハワイ大学ヒロ校ビジネス・アンド・エコノミックスカレッジとの共同ワークショップを通して、観光を広く深く学んだ。

(5) 在タイ大学連絡会 (JUNThai)

本学では、重点拠点国の一つであるタイ王国の協定校であるカセサート大学内に海外連携オフィスを設置し、研究交流や学生の留学等の支援を行っている。タイ王国には、約50校の日本の大学が海外オフィスを設置し、そのネットワークである在タイ大学連絡 (Japanese University Network in Thailand : JUNThai) に本学も加盟している。JUNThaiは四半期ごとに開催され、本学は2019年12月から幹事校を務めている。2019年12月、2020年3月に連絡会に参加し、他大学や関係機関とのネットワーク形成を図るとともに、現地の教育研究に関する情報収集を行った。

(6) 在欧日本学術拠点ネットワーク (JANET)

本学は、長年 UCL (イギリス) と研究を主とした学術交流を実施しているなど、欧州各国の協定校と交流を重ねていることもあり、主に欧州に拠点を持つ日本の大学・学術機関による日欧の学術情報交換を目的とした組織である、JANET (Japan Academic Network in Europe : 在欧日本学術拠点ネットワーク) に 2018 年 11 月に加盟した。2019 年 11 月 4 日・5 日に UCL で開催された「JANET フォーラム」に参加し、他大学や関係機関とのネットワーク形成を図るとともに、現地の教育研究に関する情報収集を行った。

8. 研究者の交流

大学の主要な活動である研究においては、海外でのデータの収集、海外機関との研究交流による研究の加速化と精度の向上は不可欠であり、毎年多くの教員、研究者を海外に派遣し、また山口大学にも多くの海外の大学教員、研究者を受け入れている。また国際的なネットワークや連携を通じて、共同研究、シンポジウムの開催、授業の相互提供といった国際活動が行われている。

2019 年度は延べ 712 名の教員を上記の目的で海外に派遣した。また 2019 年 4 月から新しく受入れを開始した外国人研究者は延べ 60 名であった。

※人数の把握は、「国立大学法人山口大学海外渡航事務取扱要領」及び「国立大学法人山口大学外国人研究者規則」による。

重点連携大学事業について

本学では、研究分野を主体とした国際連携活動を強化することにより大学の研究レベルの高度化を図ると共に、学術を通じた教育支援及び国際貢献を行うことを目的として、特に本学の研究力向上につながると期待できる海外の大学を重点連携大学として選定し、選定大学との国際連携活動に対して支援を行っている。

各研究グループは本事業主目的である「国際共著論文数」の増加を図るため、令和元年度に研究グループ全体で教職員及び学生約 80 名を重点連携大学等に派遣、約 70 名を本学に

受入れ、相互派遣を通して共同研究及び人材交流をすすめた。また、国内外の国際会議や国際シンポジウムで研究成果を発表し、論文発表とあわせて研究成果を広く周知した。このような研究交流活動を通して、主目的である「国際共著論文数」は、平成 29 年度の 20 件、平成 30 年度の 31 件からさらに増加し、令和元年度は 33 件であった。

9. 職員の研修

(1) 山口大学海外派遣 SD（スタッフ・ディベロップメント）研修

山口大学基金の支援を受け、毎年以下のとおり事務系職員を 1 週間程度海外に派遣し、海外の大学における管理方法、研究・教育支援体制を学ぶほか、職員の外国語能力の向上やグローバルマインドの醸成に努めている。

2019 年度は、山東大学が実施する「2019 Shandong University Global Partners Week」の開催にあわせて、2 名の職員を山東大学に派遣し、現地で研修を行った。また、職員 1 名が、イギリスの本学協定校であるブリストル大学、バース大学及びセントラル・ランカシャー大学を訪問し、「英国の大学における国際戦略方針と実施体制」と「英国との連携強化」をテーマとした研修を行った。

SD 研修が開始された 2004 年からの派遣実績は次表のとおりである。

年度	派遣者数	派遣国	派遣大学
2004	2	アメリカ	オクラホマ大学
		イギリス	シェフィールド大学
2005	2	アメリカ	ハワイ大学
		イギリス	シェフィールド大学
2006	2	カナダ	リジャイナ大学
		ドイツ	フリードリヒ・アレクサンダー大学・エアランゲン・ニュルンベルク
2007	2	アメリカ	オクラホマ大学
		オーストラリア	ニューカッスル大学
2008	2	中国	山東大学・香港中文大学
2009	2	中国	山東大学
2010	4	中国	山東大学
		台湾	大葉大学ほか
		インドネシア	ウダヤナ大学
2011	3	中国	山東大学
		インドネシア	ガジャマダ大学
2012	4	中国	山東大学
		台湾	大葉大学
		インドネシア	ガジャマダ大学
2013	13	中国	山東大学
		台湾	大葉大学
		インドネシア	ウダヤナ大学
		ベトナム	ハノイ農業大学・カントー大学
		タイ	カセサート大学・ラジャマンガラ工科大学
2014	16	中国	山東大学
		台湾	大葉大学
		インドネシア	ウダヤナ大学・ガジャマダ大学
		オーストラリア	シドニー工科大学・ニューカッスル大学
		カナダ	リジャイナ大学
		タイ	チェンマイ大学・シーナカリンウィロート大学
		マレーシア	マレーシア工科大学・マレーシア日本国際工科院
2015	13	中国	山東大学
		台湾	大葉大学・東海大学・静宜大学
		タイ	チュラロンコン大学・カセサート大学
		マレーシア	マレーシア工科大学・マレーシア日本国際工科院
		インドネシア	バンドン工科大学・ウダヤナ大学・国際交流基金ジャカルタ日本文化センター・インドネシア大学・ダルマプルサダ大学
		オーストラリア	ニューカッスル大学・シドニー工科大学
		イギリス	ブリストル大学・サリー大学・セントラルランカシャー大学・JSPSロンドン
		ドイツ	フリードリヒ・アレクサンダー大学・エアランゲン・ニュルンベルク
2016	9	中国	大連外国語大学・山東大学・APU上海オフィス
		台湾	大葉大学・国立中興大学・東海大学
		タイ	チェンマイ大学・カセサート大学・シーナカリンウィロート大学・チュラロンコン大学
		インドネシア	インドネシア大学・ガジャマダ大学・ウダヤナ大学・APUジャカルタオフィス
2017	3	中国	山東大学
		タイ	チェンマイ大学・カセサート大学
2018	2	中国	山東大学
2019	3	中国	山東大学
		イギリス	バース大学、ブリストル大学、セントラル・ランカシャー大学

(2) 山口大学業務英語能力向上研修

外国人留学生及び研究者の生活、教育、研究の支援や、部局等の国際交流を担当できる事務職員の育成を目指し、2010年度から、外国人対応の業務に必要なコミュニケーション能力の習得及び英語能力向上を目指し職員研修を行っている。

2019年度は、第3期中期目標・中期計画に掲げた「TOEIC スコア800点相当以上の職員

を5%以上とする」という数値目標2018年度に達成したため、英語能力の高い職員が各部署でその能力を活用する上で、「話す」「書く」の実践能力を向上させるための研修を実施した。

10. 学内の国際化推進体制の整備

全学で学内文書の英語化を進めており、2018年度に引き続いて、2019年度は下記のとおり8件の文書の英語化を実施した。

2019年度学内文書英語化、希望文書一覧	
	文書名
1	安全・衛生と健康のてびき
2	常盤事業場における安全・衛生の手引き (2014年度英語版)
3	ひやりはつと報告
4	私費外国人留学生入試受験者への入寮案内
5	感染症予防対策について(新入学の留学生へ)
6	(案内メール用)研究倫理教育 eラーニング受講案内
7	(HP用)研究倫理教育 eラーニング受講案内
8	セキュリティ対策ソフトウェアの確認・更新手順

11. 海外同窓会活動

2019年9月20日に本学の大学等間国際交流協定校であるガジャマダ大学（インドネシア・ジョグジャカルタ）に国際共同事務局を開設し、翌9月21日には、ジョグジャカルタ市内で山口大学インドネシア同窓会の発足式が開催された。当日は、同窓生含め約30名が出席のもと、同窓会設立について会合が行われ、2017年に大学院東アジア研究科を修了したDr. Achmad Ubaidillah（現インドネシア大統領秘書官）が同窓会会長に選出された。会合後は、本学教職員との交流会が行われ、昔話に花を咲かせ交流を深めていた。



ウバイ同窓会会長と岡学長



交流会の様子

第 2 章 2019 年度の留学生部門の活動

第2章 2019年度の留学生部門の活動

2019年度の留学生総数は432名（2019年5月1日時点）であり、前年度より約2名増加した（図1）。地域別ではアジア圏からの留学生数が上位を占めており（図2）、その中でも中国からの留学が最も多い（図3）。

交換留学に関しては、108名の学生を本学から派遣し、179名を受け入れた。
本学から海外へ留学した学生数は508名であった（図4）。

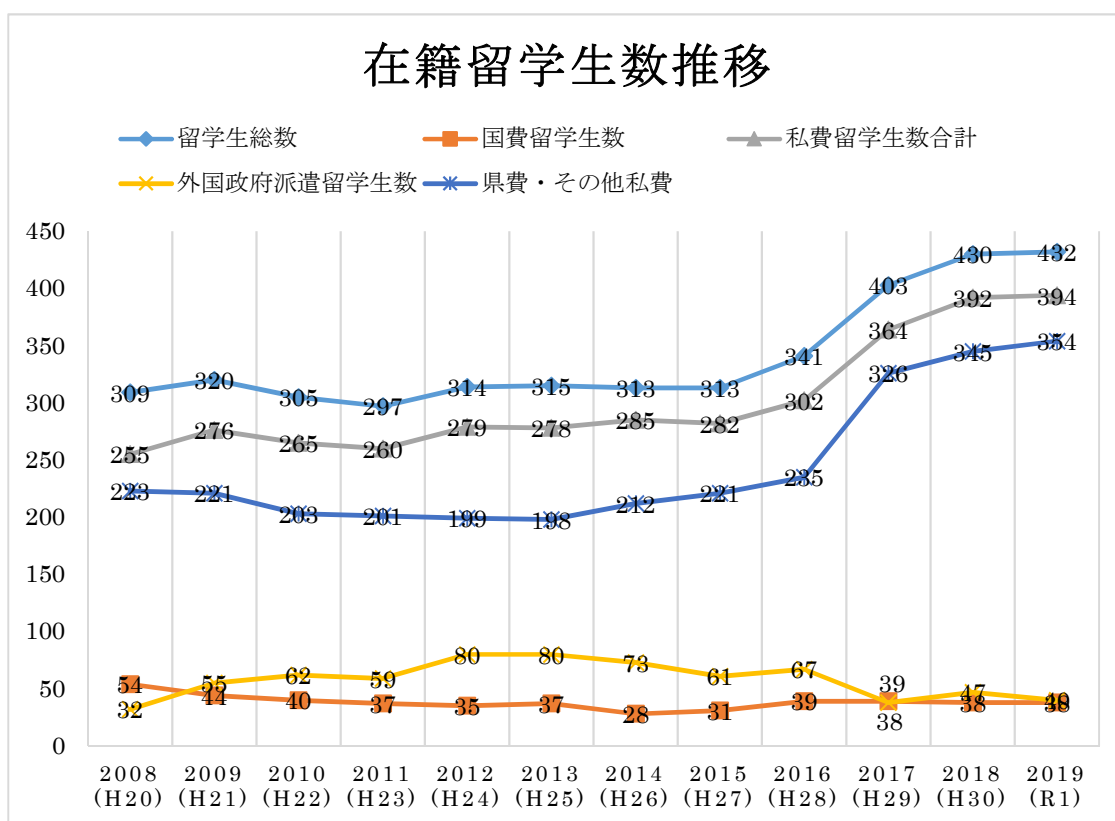


図1 在籍留学生数推移

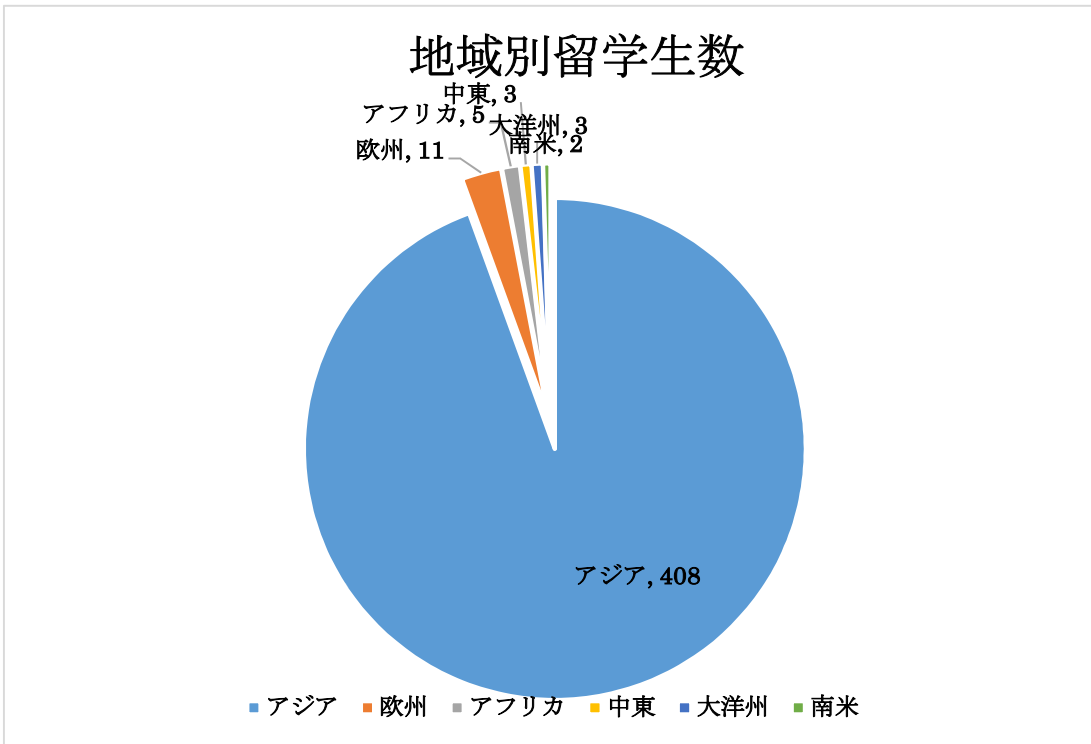


図2 地域別留学生数

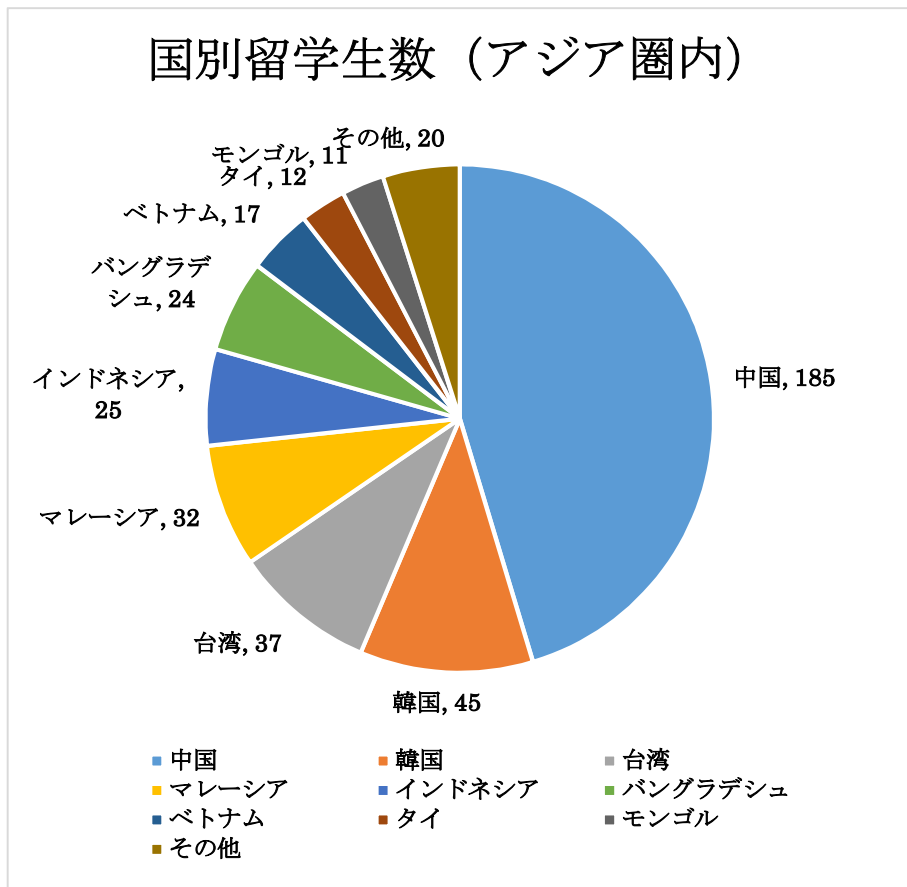


図3 国別留学生数（アジア圏内）

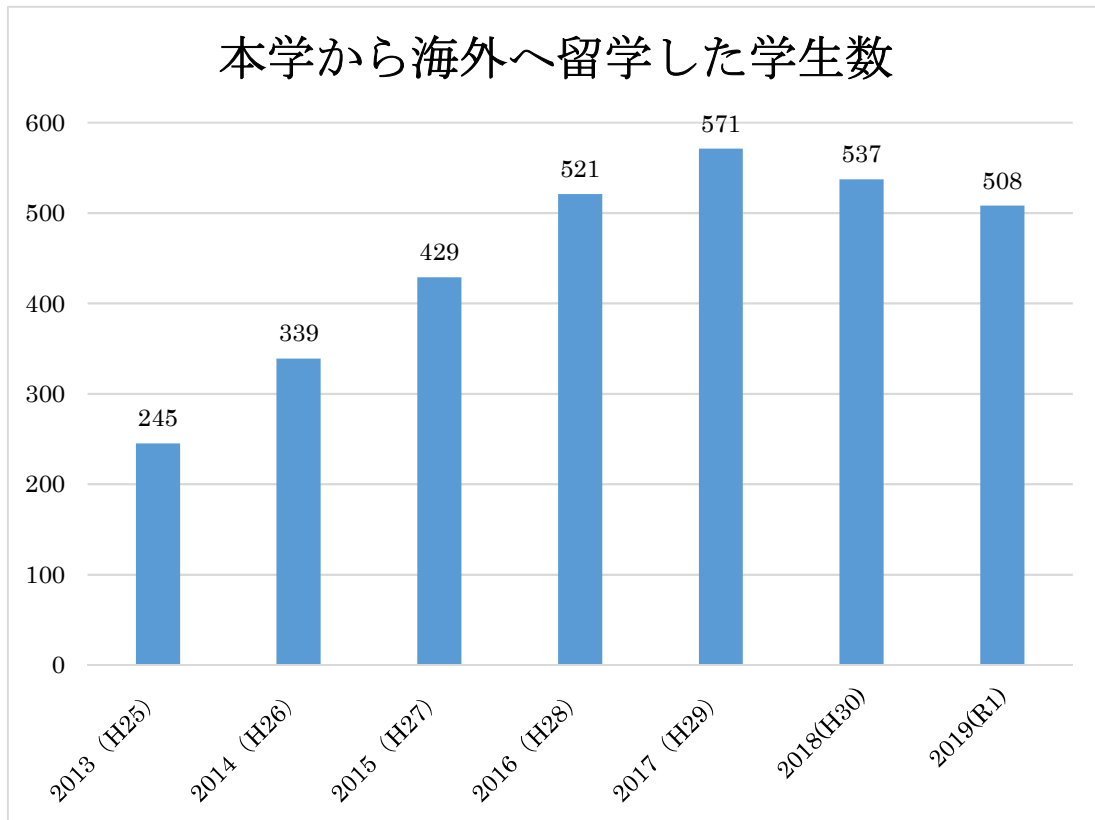


図4 本学から海外へ留学した学生数
 (※独立行政法人 日本学生支援機構の「留学生調査」の集計基準に準ずる)

1. 山口大学 HP「トピックス」で見る 2019 年度の留学生部門の活動

○ 海外研修におけるオリエンテーションを実施しました

2019年7月13日（土曜日）に、常盤キャンパスD講義棟11番教室にて、2019年度海外研修（工学教育研究センター主催）に参加する学生約60名を対象に、海外研修におけるオリエンテーションを実施しました。

今年は、外務省領事局海外邦人安全課邦人援護官の松前 了様をお招きし、「海外における安全対策～自分の身は自分で守る～」についてご講演いただきました。

講演では、ご自身の豊富な経験を踏まえた上で、貴重品の持ち歩き方から、よくある犯罪手口、被害にあわないための対策、昨今のテロ事件・自然災害、「たびレジ」・海外旅行保険の加入の必要性、万が一爆発音や銃撃音が聞こえた時の体勢（伏せる、ほふく前進、隠れる、逃げる、可能であれば外部の支援を要請する）に至るまで、シミュレーションを交えて、わかりやすく説明していただき、これから海外研修に参加する学生にとって、大変有意義なオリエンテーションになりました。



○ 国際総合科学部交換留学生在が「JR 西日本業務体験研修」に参加しました

国際総合科学部の交換留学生3名が、8月18日～22日の5日間、JR西日本広島支社にて実施された業務体験研修に参加しました。

この研修は、JR西日本広島支社と本学部の連携協力の下、平成28年度から毎年8月に実施されているもので、今回で3回目の参加となります。

研修生は、学部で開催された事前オリエンテーションにて、JR西日本の概要、経営方針、事業内容に関する講話を聴講するとともに、各自で自国の鉄道や公共交通機関の概要について調べる等、積極的に自主学習に取り組んだ後、本研修に臨みました。

今回の研修は、「JR西日本の業務や取り組みについて学び、自国の鉄道との違いを考える」をテーマとして実施され、受入れ先であるJR西日本から、SL「やまぐち」号乗車体験、駅における接客体験、車両所見学、乗務員シミュレーター体験、京都鉄道博物館の視察等、多彩なプログラムの提供をいただき、留学生にとって、大変充実した5日間となりました。

研修プログラムを通じて、研修生は、JR西日本の安全に対する取り組みや設備状況を学ぶとともに、乗客に対する各種サービスのあり方について体験し、最終日の成果報告会では、研修テーマに基づき、JR西日本の業務や取り組みについて学んだこと、業務面のみならずサービス面からみた自国の鉄道会社との相違点について、発表を行いました。

「安全最優先」をすべての社員が大切にしている、異常時の安全マニュアルが策定されていたり、1つ1つの作業に対して、指差し確認が行われていたりすることに感動したという意見は、研修生全員に共通する感想でした。

また、成果報告会終了後の懇談会では、新山口駅社員を交え、忌憚のない意見交換が行われました。駅構内の表示方法や、車内放送の内容・発音・タイミング等に関して、日本人では気付かない不便さや、「外国人観光客おもてなし」などについての意見が交わされ、貴重な機会となりました。

この研修を1つの契機として、留学生を交えた産学連携がより一層深化していくことが期待されます。



○ 中国・大連理工大学主催の中日学生交流大会に教育学部学生 8 名が参加しました

4月29日（月）から5月6日（月）まで、本学教育学部の学生8名が、中国の大連理工大学主催の中日学生交流大会に参加しました。大連理工大学創設70周年記念事業として、東京大学や京都大学など日本の協定校を中心に学生と教員総勢381名が招待されたものです。本学では教育学部上原研究室の彫刻講座受講者から希望者を募り、美術教育・国語教育・幼児教育の学生が参加し、建築芸術学部において、練り込み陶芸やデジタル3D彫刻などの実習体験やブロンズ工場見学、大連市内の彫刻公園見学など、様々なプログラムを体験しました。また、近代的な大連市の都市環境や日本と関りの深い歴史についても学びました。

大連理工大学は、中国トップクラスの理工系大学です。日本の国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）中国総合研究・さくらサイエンスセンターとも連携しています。



2. 留学促進のための環境整備

(1) 山口大学留学危機管理マニュアルの改訂

社会・経済，大学を取り巻く環境はめまぐるしく変化し続けており，取り巻くリスクもますます複雑化・多様化している。様々な事案・関係者からの意見を反映しつつ版を重ねることで未然防止や危機発生時における適切な対応が可能となるため，平成28年10月に策定した「留学危機管理マニュアル」の改訂を行った。

(2) IELTS 学内受験の実施

2019年度より，全学生を対象にIELTSの学内受験を実施した。2019年9月28日と2020年1月11日の2回の実施し，成績優秀者に対しては受験費用の一部として奨学金を支給した。

(3) 留学生サポーター活動

平成29年度に立ち上げた「留学生サポーター」には，前期90名，後期97名（H29年度の3倍）の学生が登録し活動した。留学生との交流，支援という効果のみならず，留学経験者も多数参加していることから，留学未経験者の海外留学への意識を醸成する環境を作ることができた。

(4) 山口大学基金事業「山口大学海外留学支援制度～はばたこう！山口から世界へ～」

派遣留学生154名に対し，計12,350,000円の奨学金の支給を行った。また，2019年度よりIELTS・TOEFL受験支援として受験料の一部の支援を開始。30名に対し，計300,000円を支給した。

3. 海外学生交流促進のための広報活動

(1) 海外オフィスを通じた広報活動の実施

協定校に設置している国際連携オフィスにおいて、本学の情報を発信した。具体例として、台湾オフィスにおいて、山口大学交換留学説明会等を実施し、バンコクオフィスにおいて、JUNE Fair と呼ばれている、在タイ日本国大使館での留学説明会に出展し、広報活動を行った。その他のオフィスにおいても、国・地域の現状に即した広報活動を実施した。

(2) 各国在外公館への広報活動

各国の駐日大使館・領事館や海外の高等教育機関・日本の在外公館等を訪問して本学の特徴を紹介し、海外機関と連携した研究の充実及び学生国際交流促進のための広報活動を行った。具体的には、在福岡米国領事館、在デンパサール日本国総領事館、駐広島大韓民国総領事館などを訪問した。

(3) 日本人学生向けの留学フェアの開催

10月31日～11月8日に新福利厚生施設 Favo にて第二回「留学フェア」を開催した。留学経験者が作成した留学生活紹介のポスター展示、留学体験談発表、日本語教師プログラム紹介などを実施した。卒業生による留学・就職活動体験談発表も実施し、約180名の学生が参加した。

4. 留学生センターにおける学生派遣

留学生センターにおける2019年度学生派遣実績は以下のとおりであった。

- 海外短期語学研修

夏期（2019年8月から3週間または4週間）

リジャイナ大学（カナダ）10名、ロンドン大学（イギリス）6名、北京師範大学（中国）1名

春期（2020年2月から3週間または4週間）

ニューカッスル大学（オーストラリア）4名、ロンドン大学1名

- 日本語教師アシスタントインターンシップ

台湾国際連携オフィス及び同オフィスが立地する協定校大葉大学（台湾）と共同で、本学学生の日本語指導短期研修を2020年3月に予定していたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大のため、中止を余儀なくされた。

第3章 2019年度の学術研究部門の国際交流活動

第3章 2019年度の学術研究部門の国際交流活動

独立行政法人日本学術振興会助成

1. 論文博士号取得希望者に対する支援事業

独立行政法人日本学術振興会が実施する、アジア・アフリカ諸国の優れた研究者が、日本の大学において大学院の課程によらず論文提出によって博士の学位を取得できるように支援する事業。

【研究課題】衛星リモートセンシングを使用したインドネシア降雨の研究

【研究期間】平成29年4月1日～令和2年3月31日

【山口大学実施部局】大学院創成科学研究科（工学系）

【山口大学担当教員】小河原 加久治（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】ウダヤナ大学（インドネシア）

【相手方参加者】As Syakur Abd. Rahman（講師）

【事業概要】

インドネシア地域における熱帯降雨観測衛星 TRMM のデータを解析し、特にスマトラ島周辺の降雨日変化について研究を行う。

研究計画全体3カ年で、平成30年度までに TRMM 等のデータの解析研究を進め、研究結果をまとめて学術論文雑誌への投稿を完了した。

令和元年度は、同人を32日間（R1.9.30-10.12, R2.1.29-2.16）受け入れた。査読結果を受け学術論文を完成させるとともに、現場データを用いた衛星算定降雨データの精度評価、大規模スケールの気象変動と降雨特性の関係を調査し、研究の総括と論文執筆を行った。

【得られた成果】

日本側研究指導者・指導協力者との議論を通じてスマトラ島周辺の降雨日変化研究に関する論文を修正・提出し、受理・発行された。これを受けて、人工衛星データを用いたインドネシア地域における降水時空間変動研究に関する博士論文を完成し、予備審査、本審査、および公聴会などの一連の審査を合格し、博士（学術）の学位を取得した。

2. 外国人研究者招へい事業（一般プログラム）

独立行政法人日本学術振興会が実施する、博士号取得直後の優秀な諸外国の若手研究者に対し、我が国の大学等研究機関において日本側受入研究者の指導のもとに共同して研究に従事する機会を提供するプログラム。

【研究課題】高度に規定された金属カルコゲナイドハイブリッド材料の設計とエネルギー関連機能

【研究期間】令和1年11月1日～令和3年10月31日

【山口大学実施部局】大学院創成科学研究科（工学系）

【山口大学担当教員】中山 雅晴（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】慶北大学校（韓国）

【相手方参加者】Vijay Shamrao Kumbhar（博士研究員）

【事業概要】

新規金属カルコゲナイド構造の多段階層的な制御によってそのポテンシャルを最大限引き出し、エネルギー機能材料として社会実装することを目指す。

【得られた成果】

コバルト，鉄，タングステンからなり，ウォルフレイマイト構造をもつナノ粒子をポリホール法によって合成することに成功した。このナノ粒子を水の電気分解のための触媒として適用したところ，優れた酸素発生活性と安定性を示した。水の電気分解は炭素を排出しないクリーン水素製造法として有望である。

第4章 2019年度の各部局での国際交流活動

第4章 2019年度の各部局での国際交流活動

人文学部

国際会議・講演会等の実施

- 展覧会「遍在するビューポイント」(2019.10.24-10.27, 山口市菜香亭, C.S.赤れんが前庭)
- レクチャー「スイス、トゥーン美術館のパノラマ絵画」(講師:ヘレン・ヒルシュ, トゥーン美術館館長)(2019.11.1, 山口情報芸術センター)
- シンポジウム「地域とアート」(2019.11.2, 山口市菜香亭)を特定非営利活動法人 山口現代芸術研究所主催で企画・実施

学生海外研修の実施

- 人文学部海外調査研修:東呉大学(台湾)に10名派遣(2020.3.8-3.14)の予定であったが,新型コロナウイルス流行のため中止。

その他

講演会

- 「社会史研究方法縦横談」:馬彪 教授
中国・寧夏大学回族研究院「蘭山講壇」第16場 2019.9.4(招待)
- 「中国古代「規矩」「方圓」与「標準化」」:馬彪 教授
中国・寧夏師範大学政治与歴史学院図書館学術報告庁 2019.9.6(招待)

国際シンポジウム

- 「空間の革命ー共和暦2年ルアンにおける街路、祭典、自由の木」:竹中幸史 教授
成蹊大学「アジアから見たフランス革命」 2019.8.29
- 「客家社会と親族研究」:小林宏至 准教授
中国・中央民族大学「中日人類学学術シンポジウム」 2019.9.13(招待)
- 「茂木計一郎と客家研究」:小林宏至 准教授
台湾・国立交通大学「百年往返」 2019.10.5(招待)
- 「東アジア社会における現在の『青色』の変遷をめぐって」:小林宏至 准教授
中国・浙江工商大学东亚研究院「东亚文化交流——艺术与”国际学术研讨会」
2019.12.7(招待)

教育学部

国際会議・講演会等の実施

- 創造的表現活動実践公開講座 Vol.9:国際的な視点を踏まえた表現に関する実践的専門的な研修講座。ちゃぶ台研修講座として位置づけ教育学部教員の企画・運営。
講師:オーストリア国立ザルツブルグ大学、モーツァルテウム オルフ研究所元教官 2

名、参加者：41名（教育学部学生・現職教員）（2019.8.24）

- Ilana Halperin: The Rock Cycle (Yamaguchi) イラナ・ハルペリン：ロックサイクル（ヤマグチ）2019 イラナ・ハルペリン氏をイギリスから招聘しシンポジウム・ワークショップ、展覧会を開催。（全期間：2019.10.12-11.4）
シンポジウム・ワークショップ会場：美祢市立科学博物館(2019.10.13)、展覧会・会場1：美祢市立科学博物館(2019.10.12-11.4)、会場2：秋吉台国際芸術村(2019.10.12-10.20)、会場3：Mine 秋吉台ジオパークセンター「カルスター」
- 遍在するビューポイント：スイストゥーン美術館館長、ヘレン・ヒルシュ氏を招聘して展覧会、レクチャー・シンポジウムを開催した。（主催：特定非営利法人 山口現代芸術研究所）
展覧会：2019.10.24-10.27、レクチャー・シンポジウム：2019.11.1-11.2（山口市菜香亭、C.S.赤れんが）

学生海外研修の実施

- 国際理解教育選修国際体験実習：カンボジア（トローオンドン小学校、CJCC）、ラオス（ジャパンセンター、ラオス市内2中学校、ナポ村小学校）に15人を派遣（2019.8.27-9.7）
- 大連理工大学（中国）学生交流大会に教育学部学生8名参加（引率）（2019.4.29-5.6）
- 学部間協定校・淡江大学（台湾）へ交換留学生1名を派遣（2019.2.1-2020.1.31）

海外学生受け入れプログラム等（YUSS含む）の実施

- 幼児期からの国際教育プログラム（レインボープログラム）の実施（教育学部教員・国際総合科学部教員・山口市教育委員会社会教育課の協働での活動）
本学の留学生（20名）、及び、山口市国際交流員（1名）、ALT（4名）、地域おこし協力隊（2名）等と、幼児との互恵的な国際教育をめざした活動プログラム。実施場所：山口市内公立幼稚園2園各3回（小鯖幼稚園：2019.10.5・10.18・11.3 宮野幼稚園 2020.1.9・1.16・1.23）

経済学部

国際会議・講演会等の実施

- 学部間交流協定の締結
2019.6.29 カディルハス大学（トルコ）経済・行政・社会科学部
2019.9.20 ワイカト大学（ニュージーランド）会計・ファイナンス・経済学部
2019.11.4 復旦大学日本研究センター
2020.1.24 ネパール行政職員大学
- 2019年度 寄付講座（ワンアジア財団）により、2019.10-12までに、外国人講師4名

(バングラデシュ、ラオス、ネパール、インド、) を招聘、学部および大学院にて講義を実施した。

- 経済学研究科公共管理コースでバングラデシュから12月に講師を招聘し、講義ならびに学生の修士論文の指導を行った。

学生海外研修の実施

経済学部

短期留学等

- 2019.9.17-2019.9.28 観光政策学科プロジェクト演習（ハワイ）14名参加（引率 陳禮俊先生）
- 2019.9.12-2019.9.21 観光政策学科プロジェクト演習（香港）5名参加（引率 ペルラキ先生）
- 2019.8.15-2019.8.21 観光政策学科プロジェクト演習（台湾）14名参加（引率 陳禮俊先生）
- 2019.8-9 山根先生のフィリピン英語研修（夏）24名参加
- 2020.2-3 山根先生のフィリピン英語研修（冬）12名参加
- 2019.8.9-9.2 海外インターンシップ（リジャイナ大学）2年生1名、3年生1名参加
- 2019.8.19-8.22 海外シンポジウム（韓国・東明大学）3年生7名参加
- 2019.11.28-12.7 海外研究活動（オーストラリア）4年生1名参加
- 2019.11.27-12.2 研修旅行（ハワイ）学生11名参加（引率鍋山先生）
- 2019.9.1-10.12 英語研修（フィリピン・セブ島）職会コースの学生8人参加

長期留学（交換留学）4人

- 中国 首都師範大学へ 2019.9より半年間 1名参加（コロナの影響で5か月短縮）
- 中国 西安交通大学へ 2019.9より半年間 1名参加（コロナの影響で5か月短縮）
- アメリカ オクラホマ大学へ 2019.8から7か月 1名参加（コロナの影響で2か月短縮）
- オーストラリア シドニー工科大学へ 2019.7から5か月間 1名参加

休学しての留学 4人

- 2019.10.8-2020.1.8 海外インターンシップ（ケニア）4年生1人参加
- 2019.9.14-12.7 海外研究活動（Kaplan International English Dublin・アイルランド）4年生1人参加
- 2019.3.12-12.9 語学留学（スンシル大学・韓国）4年生1人参加
- 2019.1.6-12.17 留学・語学研修プログラム等（Vietnam, Thailand, Malaysia,

Germany, Switzerland, Austria, Hungary, Czech) 4年生1人参加

海外学生受け入れプログラム等の実施

経済研究科 公共管理コース

- JICA JDS プログラム 修士2年間 10名 (バングラデシュ6名、ラオス2名、ネパール2名)
- 文部科学省奨学金 修士2年間 1名 (スリランカ)
- 私費 インドネシア1名、中国1名

経済研究科 その他 私費 8名(中国)

2019年度 JICA 青年研修 (カンボジア地方行政コース) により、2019.9.2- 9.13 まで、10名の研修員を受入れた。

その他

2020.3.8- 3.11 に、経済学部公共管理コース所属学生9名のベトナム研修旅行 (引率馬田) を計画したが、新型コロナウイルスの影響で中止した。

理学部

国際会議・講演会等の実施

- 第5回理学部講演会

日 時 : 2019.9.6

場 所 : 山口大学理学部 (日本)

講演者 : T. P. Radhakrishnan 教授 (Hyderabad 大学 化学科・インド)

題 目 : "Strongly Luminescent Molecular Solids, Phase Change Effects and the Critical Role of Oriented Molecular Assembly"

- 国際研究集会 : "Prospects of Theory of Riemann Surfaces"

期 間 : 2019.12.6-12.8

場 所 : 山口大学理学部 (日本)

学生海外研修の実施

- 理学部学生海外派遣プログラム

台湾師範大学 (台湾) 派遣 : 修士1年2名派遣, 学部1年1名派遣, 学部2年3名派遣,
学部3年2名派遣, 学部4年1名派遣 (2020.3.12-3.20)

フランス国立研究所 派遣 : 学部4年1名派遣 (2020.3.25-4.7)

海外学生受け入れプログラム等 (YUSS 含む) の実施

- 理学部サイエンス・サマー・プログラム（国立研究開発法人科学技術振興機構「日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）」の援助の下に実施）
受入留学生数：29名，実施時期：2019.8.21-8.30
内訳：台湾大学（台湾）学生6名，台湾師範大学(台湾)学生7名，
全南大学校（韓国）学生5名，湖州師範学院（中国）学生8名，
浙江理工大学（中国）学生3名

医学部

国際会議・講演会等の実施

- City of Hope (米国) 山口陽子教授を招聘し、基盤系特別専門講義「オプシーボ（がん免疫治療薬）とイベルメクチン（寄生虫駆除薬）の開発-ノーベル賞に繋がった基礎医学研究-」を山口大学小串キャンパスで開催（2019.10.1）
- 器官解剖学講座 中村教泰教授が City of Hope, Markus Kalkum 教授を訪問し、プロテインコロナのプロテオミクス解析に関する共同研究についてのラボ内にてセミナー（1回）と会議（2回）を行った。
- 器官解剖学講座 中村教泰教授が City of Hope を訪問し、「Organosilica Nanoparticles: A Novel Platform for Cancer Theranostics」という演題名で講演を行った。
- 器官解剖学講座 中村教泰教授が南カリフォルニア大学を訪問し、共同研究打ち合わせと受託研究を含む共同実験を行った。
- 第125回日本解剖学会総会・全国学術集会（会頭 神経解剖学 篠田晃教授）において、日韓解剖学会国際合同シンポジウムを開催（2020.3.25）（誌上開催）
- 第26回日本門脈圧亢進症学会総会（会長 消化器内科学 坂井田功教授）を山口県下関市で開催し、Yale 大学(米国)の Dr Yasuko Iwakiri の特別講演を開催（2019.9.12-9.13）
- 第43回日本肝臓学会西部会（会長 消化器内科学 坂井田功教授）を山口県下関市で開催し、UC Louvain（ベルギー）の Dr Etienne Sokal の招待講演を開催（2019.12.12-12.13）
- International Conference on Spreading Depolarization(iCSD2019)（会長 脳神経外科学 鈴木倫保教授）を横浜市はまぎんホールで開催（2019.7.1-7.3）（基調講演 1 「Investigator-initiated Clinical Trial for Medical Devices and Regulatory Points to Consider」 演者：岡山大学 櫻井淳先生（2019.7.1）、基調講演 2 「Active ictal DC shifts and red slow in epilepsy patients: other slows among pathological DC brain potentials」 演者：京都大学 池田昭夫先生（2019.7.2）、基調講演 3 「Brain decoding: concepts and potential applications」 演者：情報通信研究機構 西本伸志先生

(2019.7.3)、基調講演4 「Neurovascular coupling in health and diseases」 演者：
McGill University(カナダ) Edith Hamel 先生 (2019.7.3))

学生海外研修の実施

- 自己開発コース：(医学科3年生)で以下のとおり学生を派遣
ハーバード大学ジョスリン糖尿病センター(アメリカ)に1名派遣(2019.6.21-11.29)
City of Hope(アメリカ)に2名派遣(2019.6.24-11.30、2019.6.24-12.2 各1名)
ワシントン大学セントルイス校(アメリカ)に1名派遣(2019.6.25-11.22)
ミシガン大学(アメリカ)に5名派遣(2019.6.21-11.29、2019.6.21-11.30、2019.6.21-11.30、2019.6.24-12.1、2019.6.24-12.2 各1名)
オーガスタ大学(アメリカ)に1名派遣(2019.7.1-11.30)
ローザンヌ大学(スイス)に1名派遣(2019.6.20-11.30)
バース大学(イギリス)に2名派遣(2019.6.23-12.2、2019.7.8-11.29 各1名)
メモリアル大学(カナダ)に1名派遣(2019.6.26-12.2)
- アジア・太平洋地域看護・健康科学リーダー育成連携(APAHL事業)でマヒドン大学(タイ)に保健学科から10名派遣(2019.6.26-6.29)

海外学生受け入れプログラム等(YUSS含む)の実施

- 英国・バース大学からの医学部医学科短期研究プログラム：英国・バース大学から1名の学生をシステムズ再生・病態医化学講座で受入(2019.6.21-2020.6.20)
- IFMSA-Japan(国際医学生連盟日本)による交換留学プログラム：University in Oslo(ノルウェー)から1名を消化器内科学講座で受入(2019.8.1-8.31)
- インドネシア・ウダヤナ大学からの医学部学生臨床実習プログラム：インドネシア・ウダヤナ大学から5名の学生を7講座(器官病態内科学講座、病態制御内科学講座、器官病態外科学講座、消化器・腫瘍外科学講座、小児科学講座、産科婦人科学講座、救急・総合診療医学講座)で受入(2019.11.11-12.6)

その他

- カンザス大学(米国)に消化器内科学の助教1名が再生療法に関して留学
- カザン大学(ロシア)との部局間国際交流協定に基づく学術交流を消化器内科学として実施
- 「2019中日先進医療と新薬研究サミット及び成果実業化大会(成都市人民政府主催)」で肝臓再生基盤学講師が招待講演を実施(2019.11.10)

工学部

国際会議・講演会等の実施

- SPIED2019【山口大学（日本）】（2019.8.22-8.28）
- 群山大学との第11回研究発表セミナー【群山大学（韓国）】（2019.9.16-9.18）
- 第16回 Young Scientist Seminar (16th YSS)【山口（日本）】（2019.10.12-10.13）
- CORECT-IJJSS 2019 Training course on satellite data utilization【バリ（インドネシア）】（2019.11.13）
- International Conference on Science, Technology and Humanities(ICoSTH)2019【バリ（インドネシア）】（2019.11.14-11.15）
- International Conference on Sustainability Science and Management & Indonesia-Japan Joint Scientific Symposium : CORECT-IJJSS 2019【バリ（インドネシア）】（2019.11.14-11.15）
- 忠北大学との第6回研究発表セミナー【山口大学（日本）】（2019.11.18-11.20）
- The 5th ISRM Young Scholars' Symposium on Rock Mechanics and International Symposium on Rock Engineering for Innovative Future , ISRM Specialized Conference【沖縄（日本）】（2019.12.1-12.4）
- 大学生創成工学デザイン競技会 (CEDC) 2019, 創成教育研究国際会議 (ICIARE)2019【泗川市（韓国）】（2019.12.20-12.23）
- International Young Researcher Forum “Membranes for a sustainable future”【山口大学（日本）】（2019.12.24）

学生海外研修の実施

- グローバル技術者涵養のための海外研修プログラムで32名派遣
- グローバル技術者養成のための海外研修プログラムで18名派遣
- グローバル技術者育成のための海外研修プログラムで17名派遣

海外学生受け入れプログラム等（YUSS含む）の実施

	プログラム名	大学名	国名	日程			人数
1	交流協定に基づく短期インターンシップ	カセサート大学	タイ	2019.5.31	～	2019.7.1	8
2	微生物を利用した資源回収に関する共同研究・教育プログラム	ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校	タイ	2019.7.1	～	2019.9.28	2
3	交流協定に基づく短期インターンシップ	モンクット王工科大学	タイ	2019.6.3	～	2019.7.31	1

4	Yamaguchi University- Universitas Brawijaya Summer Course Program	ブラビジャヤ大学	インド ネシア	2019.6.16	～	2019.6.29	5
5	日本の先進的な環境技術（水 処理技術・廃棄物処理技術） に関する学習と体験	ブラビジャヤ大学	インド ネシア	2019.9.8	～	2019.9.14	10
6	山口大学ーウボンラチャタニ 大学遺伝子工学技術プログラ ム	ウボンラチャタニ大 学	タイ	2019.10.19	～	2019.12.27	1
7	リモートセンシングと人工知 能による先端情報処理技術に 関する学習と体験	インド国立クルクシ ェトラ工科大学	インド	2019.10.12	～	2019.10.18	5
8	Summer Program for Innovative Engineering Design (SPIED)	江蘇大学、四川大 学錦江学院、重慶理 工大学、群山大 学、忠北大学、建 国大学、仁済大 学、清原大学	中国、 韓国	2019.8.25	～	2019.8.29	76
9	山口大学ーシーナカリン ウ ィロート大学 遺伝子工学技術プログラム	シーナカリンウイ ロート大学	タイ	2019.1.11	～	2020.3.27	1
10	熱帯泥炭地保全のための地下 水流速計測技術体験	リアウ大学、ブン カリス高等専門学 校	インド ネシア	2020.3.1	～	2020.3.7	10
11	ERASMUS+ によるインタ ーンシップ	カンタブリア大学	スペ イン	2019.9.19	～	2019.12.29	2
12	学部間協定に基づくインター ンシップ	新リスボン大学	ポ ルト ガル	2019.10.1	～	2020.3.25	1
13	大学間協定に基づくインター ンシップ	ハイメ1世大学	スペ イン	2019.10.1	～	2020.2.29	1

その他

- **Erasmus+に基づき教職員の派遣・受入を行い、派遣・受入先の大学では講義を実施**

【派遣】

- 2019. 6.24-6.28 新リスボン大学（ポルトガル） 教員1名
- 2019.10.14-10.18 カンタブリア大学（スペイン） 教員1名

【受入】

- 2019.4.15-4.19 新リスボン大学（ポルトガル） 教員1名
- 2019.7.7-7.13 カンタブリア大学（スペイン） 教員1名

- **四川大学錦江学院（中国）との1+2プログラムの試行**

2018.10 四川大学錦江学院の学生3名を研究生として受け入れ、2019.4まで卒業論文指導を実施し、一度帰国して卒論発表を行い、8月に山口大学の博士前期課程の入試を受験し、10月から本学博士前期課程に入学した。

2019.10 四川大学錦江学院から新たに4年次生3名を交換留学生として受け入れ、本学学部授業を受けさせながら、卒論研究の指導を行っている。

- 山口大学国際共著論文増加プロジェクト（外国人研究者短期招聘支援）

2019.10.5-12.6 Universiti Malaysia Perlis（マレーシア）から Senior Lecture 1名を招聘研究者として受け入れ、共著論文内容に関する研究の進め方及び論文作成方法について議論を行った。1年以内に国際共著論文を2報以上発行できる見通しがあった。

- 外国人研究者の受入：21名

農学部

国際会議・講演会等の実施

- The 3rd e-ASIA JRP Seminar を Surabaya（インドネシア）で開催（2019.10.28）
- The 4th Seminar of Priority Universities for Cooperation in Japan（第4回重点大学セミナー）を山口大学で開催（2019.11.4）

学生海外研修の実施

- 研修名：JASSO 海外留学支援制度（協定派遣）「熱帯性環境生物資源開発国際ネットワーク形成のための人材育成プログラム」

	派遣先	派遣期間	派遣人数*
1	カセサート大学 タイ	2019.8.1-9.1	3名
		2019.10.24-11.24	2名
		2019.11.4-12.6	4名
		2019.12.20-2020.1.8	3名(3名)
2	チェンマイ大学 タイ	2020.2.4-3.6	1名
3	チュラロンコン大学 タイ	2019.8.21-9.21	2名
4	コンケン大学 タイ	2019.9.3-10.6	2名
5	シーナカリンウィロット大学 タイ	2019.8.19-9.19	1名(1名)
6	メイジョー大学 タイ	2019.8.26-9.26	1名
7	ブラウイジャヤ大学 インドネシア	2019.8.21-9.24	1名
8	国立中興大学 台湾	2020.2.11-3.13	1名

※表中の()内は工学部生及び創成科学研究科(工学系)の人数(内数)を示します。

- 研修名：農学部学生海外派遣推進プログラム（短期留学）及び農学部学生海外派遣推進プログラム（大学院進学（国際連携農学生命科学専攻））→カセサート大学（タイ）に2名派遣（2020.2.13-2.14）
- 研修名：フィリピン短期英語特訓留学（責任者：経済学部教授 山根和明）

→San Agustin (サンアガスティン) 大学附属語学センター (通称 LSLC)
(フィリピン) に 1 名派遣 (2020.2.16-3.13)

海外学生受け入れプログラム等 (YUSS 含む) の実施

- 研修名 : JASSO 海外留学支援制度 (協定受入) 「熱帯性環境生物資源開発国際ネットワーク形成のための人材育成プログラム

	所属大学	受入期間	受入人数*
1	カセサート大学 タイ	2019.10.2-12.24	1 名
		2019.10.2-12.25	2 名
		2019.10.11-12.24	1 名
2	チェンマイ大学 タイ	2019.9.16-12.11	2 名
3	チュラロンコン大学 タイ	2019.9.25-11.30	2 名
4	コンケン大学 タイ	2019.10.2-12.15	1 名
		2019.10.3-12.14	1 名(1 名)
5	シーナカリンウィロット大学 タイ	2020.1.14-3.26	1 名(1 名)
6	ウボンラチャタニ大学 タイ	2019.10.19-12.26	1 名(1 名)
7	メイジョー大学 タイ	2019.9.2-11.14	1 名
8	ボゴール農科大学 インドネシア	2020.1.20-3.23	1 名
9	ブラウイジャヤ大学 インドネシア	2019.10.2-12.4	1 名
10	ガジャマダ大学 インドネシア	2019.10.3-12.15	1 名
11	カントー大学 ベトナム	2019.10.10-12.30	1 名
12	ベトナム国立農業大学 ベトナム	2019.9.2-11.14	1 名
13	ジャハンギルナガル大学 バングラデシュ	2019.10.10-12.11	1 名
14	国立中興大学 台湾	2019.9.9-11.24	1 名

※表中の()内は工学部及び創成科学研究科(工学系)で受け入れた人数(内数)を示します。

- 研修名 : 微生物機能科学プログラム (YUSS)
→スラナリー工科大学 (タイ) から 1 名受入 (2019.10.22-11.22)
- 研修名 : 微生物機能科学プログラム (YUSS)
→パラツキー大学 (チェコ) から 1 名受入 (2019.2.1-5.27)
- 研修名 : 植物機能科学プログラム (YUSS)
→パラツキー大学 (チェコ) から 1 名受入 (2019.2.1-5.27)

その他

- 大学院創成科学研究科修士課程国際連携農学生命科学研究専攻が認可
- SDGsへの取り組み : フードバンクの研究、地球温暖化に対応した新しい野菜品種の開発、水欠乏、過湿、高温などの環境ストレスに対する植物の耐性機構に関する研究

、耐熱性微生物の耐熱機構の解析と利用

共同獣医学部

国際会議・講演会等の実施

- International Congress on One Health & AAVS-MyOHUN-WPSA [Malaysia]-SEAOHUN Meetings 2019 【Marriott Hotel,Putrajaya Malaysia】 (2019.6.24-6.28)
- The 4th International Symposium in Veterinary Science【Udayana Univ., Indonesia】 (2020.2.13)
- The 2nd AJIVE (Association of Japan-Indonesia Veterinary Education) Symposium 【Udayana Univ., Indonesia】 (2020.2.13)

学生海外研修の実施

- 令和元年度中興大学（台湾）獣医学部夏期研修に 2 名を派遣（2019.8.11-2019.8.24）
- 令和元年度サラゴサ大学（スペイン）獣医学部夏期研修に 1 名を派遣（2019.8.31-2019.9.21）

海外学生受け入れプログラム等（YUSS 含む）の実施

- 令和元年度台湾中興大学学生講義・実習プログラム：中興大学（台湾）から 2 名受入（2019.8.18-2019.8.31）
- 令和元年度アイルランガ大学海外研修生受け入れプログラム：アイルランガ大学（インドネシア）から 3 名受入（2020.1.6-2020.1.26）

その他

【共同獣医学部】

- 国費外国人留学生受入れ
インドネシア（大学推薦） 2019.4.1～ （共同獣医学研究科入学）
インドネシア（大学推薦） 2019.10.1～ （研究生）
- 私費外国人留学生受入れ
インドネシア 2019.4.1～ （共同獣医学研究科入学）
- 交換留学生受入れ
スペイン（大学間交流協定） 2019.10.1-2020.8.31 （特別聴講学生）
- 交換留学生派遣
スペイン（大学間交流協定） 2019.9.16-2020.3.12
※新型コロナウイルス感染症拡大のため、途中帰国。

【共同獣医学研究科・連合獣医学研究科】

- 研究科長裁量経費（大学院生国際交流活性化経費）により、大学院生の国際交流の活性化及び国際学会・会議での研究成果の発表を促進として選考の上4名を派遣した。
- 北海道大学において開催された「Sapporo Summer Symposium of One Health (SaSSOH 2019)」に学生5名を派遣し、他大学の大学院生・博士研究員・若手教員と研究交流を行い、それぞれが自身の研究についてポスターあるいは英語による口頭発表を行った。
- 外国人研究者受入れ
インド (Department of Zoology, University of Kalyani, 2名) 2019.5.8-2020.5.30
インドネシア (Universitas Airlangga) 2019.7.22-2019.10.20
インドネシア (Universitas Airlangga) 2019.10.1-2020.1.31
中国 (青島農業大学海洋科学工学部, 中国科学院淡水生物研究所)
2019.10.3-2019.10.11, 2019.12.7-2019.12.19, 2020.1.28-2020.2.7
- インドネシアにおける獣医学教育研究者育成プログラムの構築 (動物感染症総合実習)
2019.8.23-2019.9.2
インドネシア (Bogor Agricultural University, 2名, Universitas Gadjah Mada, 2名, Airlangga University, 2名)
ネパール (Agriculture and Forestry University, 2名)
ベトナム (Vietnam National University of Agriculture, 2名)
- 学部間国際学術協定2件
新規 ダバオ・オリエンタル州立大学海浜生物環境保全センター (フィリピン)
2019.9.23付け
更新 農業林業大学 (AFU; The Agriculture and Forestry University) 畜産獣医水産学部 (ネパール) 2019.3.5付け

国際総合科学部

学生海外研修の実施

- フィリピン短期語学研修 (QQEnglish) 2019.8.25 - 9.21 100名
- フィリピンインターンシップ (QQEnglish) 2019.8.18 - 9.12 6名
- 韓国インターンシップ (トクヤマ코리아) 2019.7.1 - 7.5 3名
- 台湾インターンシップ (全台物流) 2019.7.8 - 7.12 10名

その他

- JR 西日本広島支社の国際総合科学部交換留学生向け業務体験研修
2019.8.18- 8.22 の間 5 日間 3 名
- 山口市の国際総合科学部交換留学生向け業務体験研修
2020.2.7- 2.13 の間 4 日間 4 名

東アジア研究科

国際会議・講演会等の実施

- 第 42 回東アジア学術講演会・作品展示会：馬銘浩(台湾・淡江大学副教授)、
2019.7.3(水) 10:30～、山口大学学生会館 2 階会議室。2 階ロビーで書道作品を展示
*講演内容：
中国の書道文化と日本の書道文化の交流について
書道の伝統から創新へ
展示されている『万葉集』の歌の漢字表記について
- 第 43 回東アジア学術講演会：Yingji ZHONG(中国・山東大学副教授)「Multi-hop Routing Neural Fuzzy Connection Admission Controller Scheduling Scheme for Artificial Intelligence Network」、2019.7.30(火)13:30-15:00、東アジア研究科・経済学研究科棟 3 階 307 演習室。
- 第 44 回東アジア学術講演会：Arijita Dutta(Professor, Department of Economics, University of Calcutta, India)「Medical Tourism in Selected Asian Economies」、
2019.12.19(木)16:30-17:30、山口大学東アジア研究科 307 演習室。

技術経営研究科

国際会議・講演会等の実施

- MOT 国際シンポジウム (ISAME2019 in バリ) をバンドン工科大学 (インドネシア) で開催。バンドン工科大学 (インドネシア), ダナン科学技術大学 (ベトナム), マレーシア工科大学, マラ工科大学 (マレーシア), チェンマイ大学 (タイ), 山口大学の 6 大学が参加。2019.8.8 – 8.9
- MOT 国際シンポジウム (ISAME2019 in 山口) を山口県山口市山口大学吉田キャンパスで開催。バンドン工科大学 (インドネシア), ダナン科学技術大学 (ベトナム), マレーシア工科大学, マラ工科大学 (マレーシア), チェンマイ大学 (タイ), 山口大学の 6 大学が参加。2019.11.21 – 11.22

学生海外研修の実施

- MOT と工学部の連携による理系大学院・学部を対象としたクロスボーダー型 PBL 研修：マレーシア工科大学に山口大学教員 1 名と学生 15 名（大学院生 11 名，学部生 4 名）を派遣。2019.8.23 – 9.12
- MOT 社会人大学院を対象としたクロスボーダー型 PBL 研修：マレーシア工科大学に山口大学教員 2 名と大学院生 5 名を派遣 2019.12.3 – 12.5

海外学生受け入れプログラム等（YUSS 含む）の実施

- JICA による国別研修マレーシア「技術経営研修」として、マレーシア工科大学日本マレーシア国際工科院（MJIT）の教員と大学院生を対象に知的財産データベースを活用した分析と応用に関する研修を実施 2019.8.26 – 9.6